

令和 7 年度 自己点検・評価書 (暫定版)

令和 8 年 7 月 2 3 日

佐賀大学

医学部・大学院医学系研究科

目次

I 現況及び特徴	1
II 目的	2
III 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）	
分析項目 I 教育活動の状況	
A. 地域・附属病院との連携による教育活動	4
B. 教育の質の保証・向上	5
C. リカレント教育の推進	6
分析項目 II 教育成果の状況	
A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取	7
B. 卒業（修了）生からの意見聴取	15
C. 就職先等からの意見聴取	19
IV 研究に関する状況と自己評価	
分析項目 I 研究活動の状況	
1. 研究の実施体制・推進体制	31
2. 発表論文数	32
3. 学会発表数	32
4. 特許出願・保有件数	32
5. 外部資金の獲得状況	33
6. 研究に対する支援	36
7. その他の取組み	38
分析項目 II 研究成果の状況	39
V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価	
1. 教育の国際交流状況	40
2. 社会連携・貢献に関する状況	40
VI-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価	
1. 医学部・医学系研究科の第4期中期目標・中期計画及び進捗状況	42
2. 施設の状況	44
3. その他部局の重要な取組	45
VI-II 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策	46

I 現況及び特徴

佐賀大学医学部は、昭和 51 年 10 月 1 日に開学した旧佐賀医科大学を前身として、平成 15 年 10 月 1 日に旧佐賀大学と統合し、平成 16 年 4 月 1 日からの法人化により国立大学法人佐賀大学医学部（医学科、看護学科）となり、現在に至っている。大学院としては、昭和 59 年 4 月 12 日に医学研究科・博士課程を設置し、平成 9 年 4 月 1 日の修士課程看護学専攻の設置に伴い医学系研究科に改称、さらに、平成 15 年 4 月 1 日に修士課程医科学専攻を設置したことにより、医師・看護師に加えて、地域包括医療を担う様々な領域の専門職者を育成する高度専門教育課程が整備されている。平成 31 年 4 月 1 日から先進健康科学研究科を設置し、医学系研究科（修士課程）は廃止され、先進健康科学研究科に医科学コース及び総合看護科学コースを設置した。

医学部では、1 県 1 医科大学という国の方針のもとに建学した経緯から、地域包括医療の中核としての使命を担い、社会の要請に応える良き医療人の育成を第一の目的として、教育・研究・診療を一体とした活動を推進している。

教育の特徴として自己学習・自己評価をモットーとし、科学的論理的思考に基づいた問題解決型学習法を導入し、医療職者に求められる広い視野からの問題解決能力の涵養をめざしている。

研究面では生活習慣病をはじめ、重要課題として免疫、アレルギー、がんに対する分子レベルでの研究を行い、予防と治療法の確立に取り組んでいる。

地域包括医療の教育研究並びに地域貢献活動の拠点として地域医療科学教育研究センターを全国に先駆けて設置している。

附属病院では「患者・医療人に選ばれる病院を目指して」という病院理念を絶えず念頭に置き、病院の 3 つの目標である、地域医療への貢献、良き医療人の育成、高度医療技術の開発研究を果たすべく努力している。

Ⅱ 目的

医学部では、以下の理念、目的、目標を掲げ、また、本学で定める「佐賀大学 学士力」に則り教育活動を展開している。

これらの内容は、学校教育法第 83 条に規定された大学一般に求められる目的「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」並びに、本学のミッションの再定義（医学分野）「地域と共に未来に向けて発展し続ける」ことを掲げる佐賀大学の理念等に基づき、コミュニケーション能力や臨床技能を有し、社会の要請に応えうる「良き医療人」を育成し、医学の発展や地域包括医療の向上に寄与する。及びミッションの再定義（保健系分野）「佐賀大学の理念等に基づき、高い倫理感に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践力を持った看護職者を育成する。特に、自己学習支援システム、少人数教育体制、体験に基づいた学習を重視した実践的教育方法の導入や、附属病院看護部と連携した臨地実習の充実、医学科との教育連携等により、看護教育の質の向上に寄与する。」に適合している。

【使命】

医及び看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学及び看護学の知識技術並びに医師又は看護職者たるにふさわしい態度を習得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学及び看護学の水準及び地域医療の向上に寄与する。

【基本理念】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 2＞

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展及び地域包括医療の向上に寄与する。

◆医学科

【教育目的】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 3＞

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成する。

◆看護学科

【教育目的】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 4＞

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成する。

【教育目標】

1. 看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、人を尊重する態度を身につける。
2. 的確な看護実践ができるように看護の知識と技術を修得する。
3. 看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身につける。
4. 社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う。

医学系研究科では、以下の理念、目的、目標を掲げ、教育活動を行っている。

これらの内容は、学校教育法第 99 条に規定された大学院一般に求められる目的「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与する」に適合している。

【基本理念】＜佐賀大学大学院医学系研究科規則 第 1 条の 2＞

研究科は、医学・医療の専門分野において、社会の要請に応えうる研究者及び高度専門職者を育成し、学術研究を遂行することにより、医学・医療の発展と地域包括医療の向上に寄与する。

◆博士課程

【教育目的】

医学・医療の領域において、自立して独創的研究活動を遂行するために必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識と優れた技術を有し、教育・研究・医療の各分野で指導的役割を担う人材を育成する。

【教育目標】

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学・医療の諸分野での指導的役割を果たす能力を身につける。
2. 幅広い専門的知識・技術を身につけ、研究及び医学・医療の諸分野での実践で発揮できる。
3. 自立して研究を行うために必要な実験デザインなどの研究手法や研究遂行能力、あるいは研究能力を備えた高度専門職者としての技量を身につける。
4. 幅広い視野を持ち、国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

Ⅲ 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

A. 地域・附属病院との連携による教育活動

医学部学生の臨床教育の充実を期するとともに地域医療の向上に資することを目的とし、関連教育病院1施設と臨床医学教育実習の協力病院46施設と協定書を締結している。

関連教育病院に関する協定書の締結施設
地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館

臨床医学教育実習に関する協定書の締結施設	
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター	佐賀市立富士大和温泉病院
独立行政法人地域医療機能推進機構佐賀中部病院	唐津市民病院きたはた
医療法人社団高邦会高木病院	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院
社会医療法人祐愛会織田病院	神崎市国民健康保険背振診療所
佐賀市立国民健康保険三瀬診療所	医療法人大和正信会ふじおか病院
医療法人智仁会佐賀リハビリテーション病院	坂本内科医院
公益財団法人健和会大手町病院	陣内内科・小児科クリニック
独立行政法人国立病院機構佐賀病院	医療法人ひらまつ病院
医療法人徳洲会福岡徳洲会病院	独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
日本赤十字社唐津赤十字病院	医療法人あおぞら胃腸科
医療法人コールメディカルクリニック佐賀	医療法人慈孝会七山診療所
医療法人力武クリニック	医療法人純伸会矢ヶ部医院
ながえ内科クリニック	伊万里有田共立病院
ひさのう循環器・内科	町立太良病院
池田内科・消化器科	医療法人尽心会百武整形外科・スポーツクリニック
医療法人中西内科	さかえまち整形外科
独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	医療法人けやき会くらたクリニック
さとう泌尿器科	医療法人天心堂志田病院
南里泌尿器科医院	医療法人社団如水会今村病院
社会医療法人財団池友会福岡和白病院	医療法人葡萄の木ぶどうの木クリニック
社会福祉法人恩賜財団済生会唐津病院	社会医療法人謙仁会山元記念病院
医療法人ロコメディカル江口病院	医療法人友和会鶴田整形外科
医療法人社団敬愛会佐賀記念病院	公立佐賀中央病院

B. 教育の質の保証・向上

下記に示すように、医学部FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会がFD講演会・研修会からなるFDを企画立案している。教員へFDに関する意見を聴取し、その意見や教育委員会における教育改善の検討を基に、教職員・学生のニーズを反映したテーマで翌年度以降のFDを企画している。また、研修会に参加した教員へのアンケートを実施し、FD参加の効果や今後の教育改善への結び付きに関して全体の97.9%が「効果的」という回答を得ており、教育の質の向上や授業の改善等にFDの成果が認められている。

令和7年度第1回医学・看護学教育研修会

令和7年7月16日（水）17：30～18：30（対面およびオンラインでの開催）

テーマ：「佐賀大学医学部の教育に係る現在の取り組み」（参加教員96人）

講師：野出孝一医学部長、副島英伸副医学部長、小田康友副医学部長、多胡雅毅教授、
山下駿特任准教授

【参加者アンケートより記載代表例】

- ・医学部のかかえる医学教育の問題と、現在とられている対策、その効果について全体像をよく理解できました。こういう取り組みは初めてでとても貴重なものだと思います。
- ・学生、研修医、専攻医教育に対するモチベーションを、学部を挙げて高めていくべきと感じました。
- ・医学科の教育に関する取り組みがよく分かりました。

【成果】【参加者アンケート：研修会の内容は、今後の教育に効果的か。】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・非常に効果的 35 (36.46%) | ・かなり効果的 36 (37.5%) |
| ・ある程度効果的 24 (25.0 %) | ・あまり効果はない 1 (1.04%) |

令和7年度第2回医学・看護学教育研修会

令和7年9月17日（水）17：30～18：30（対面およびオンラインでの開催）

テーマ：「医学部生の動向を知る～小学校・中学校の教育から～」（参加教員96人）

講師：ウェルビーイング創造センター 恵 明子准教授

【参加者アンケートより記載代表例】

- ・どのように今まで教育されてきたのか、がよく分かった。間違えることをほめるというような姿勢が、すごくいい意見だなと感じました。
- ・選択肢が多い時代となり義務教育時期の大変さが良くわかりました。一方で、大学は自分で方向性を決めて入学してきている（専門性が高い）ことを意識してもらう必要があると感じました。

【成果】【参加者アンケート：研修会の内容は、今後の教育に役立つか。】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・非常に効果的 16 (16.66%) | ・かなり効果的 36 (37.5%) |
| ・ある程度効果的 41 (42.71%) | ・あまり効果はない 3 (3.13%) |

C. リカレント教育の推進

医学部では、以下のリカレント教育を実施している。

【助産師のための再就業支援事業】

本事業は、平成 23 年度に文部科学省の補助事業として開始され、令和 5 年度からは佐賀県の委託事業として継続的に実施されている。

佐賀県における助産師の不足および地域・施設間での偏在の是正を図るとともに、地域医療の質の向上と持続可能な医療体制の構築を目的とし、潜在助産師の復職支援と現職助産師のスキル向上を推進する教育プログラムを提供している。

【地域薬剤師のリカレント教育】

本事業は、令和 5 年度に佐賀県の委託事業として開始され、地域薬剤師のキャリア形成と専門性向上を支援する教育プログラムを提供している。

佐賀県には薬学部が存在せず、薬剤師の専門教育機会の不足や地域定着率の低さが課題となっている。これらの課題を解決するため、佐賀大学医学部附属病院が教育拠点となり、地域医療を担う薬剤師の育成と定着の推進に取り組んでいる。

令和 7 年度においては、病院・薬局薬剤師、薬学部教員・学生を対象に「令和 7 年度リカレント研修キャリアアップセミナー」を開催したほか、新たな取り組みとして病院・薬局・行政の薬剤師、薬学性を対象とする「1 日研修インターン」を開催した。

開催日：令和 8 年 2 月 22 日（日）

場所：ホテルマリターレ創世 佐賀 4 階 グランデピアツア（佐賀市神野東 2 丁目 5-15）

参加人数：56 名

分析項目Ⅱ教育成果の状況

A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取

医学科6年生及び看護学科4年生の卒業直前に、授業科目評価に関するアンケートを実施している。

令和7年度 卒前アンケート			回答数	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	少しは有効 3 %	概ね有効 4 %	大いに有効 5 %	5段階評価	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	有効といえる 3+4+5 %
医学科												
授業科目評価												
授業科目名	開講年次	開講年度(令和)										
医療入門Ⅰ	1	2	95	1%	3%	11%	39%	46%	4.3	1%	3%	96%
英語	1	2	95	7%	12%	23%	33%	25%	3.6	7%	12%	81%
平均			95.0	4%	7%	17%	36%	36%	3.9	4%	7%	88%
情報基礎概論	1	2	95	2%	12%	23%	43%	20%	3.7	2%	12%	86%
情報基礎演習Ⅰ	1	2	95	2%	13%	23%	42%	20%	3.7	2%	13%	85%
平均			95.0	2%	12%	23%	43%	20%	3.7	2%	12%	86%
生命倫理学	1	2	95	1%	3%	11%	37%	48%	4.3	1%	3%	96%
行動科学原論	1	2	94	1%	5%	15%	39%	39%	4.1	1%	5%	94%
医療入門Ⅱ	2	3	95	1%	2%	7%	46%	43%	4.3	1%	2%	97%
医療統計学	1	2	95	2%	2%	19%	47%	29%	4.0	2%	2%	96%
物理学	1	2	95	16%	22%	15%	28%	19%	3.1	16%	22%	62%
化学	1	2	95	3%	17%	23%	33%	24%	3.6	3%	17%	80%
生物学	1	2	95	0%	8%	15%	45%	32%	4.0	0%	8%	92%
平均			94.9	3%	9%	15%	39%	34%	3.9	3%	9%	88%
分子細胞生物学Ⅰ	1	2	95	0%	1%	9%	41%	48%	4.4	0%	1%	99%
分子細胞生物学Ⅱ	1	2	95	0%	1%	9%	44%	45%	4.3	0%	1%	99%
分子細胞生物学Ⅲ	1	2	95	0%	1%	8%	41%	49%	4.4	0%	1%	99%
免疫学	2	3	95	0%	0%	5%	41%	54%	4.5	0%	0%	100%
人体発生学	2	3	95	0%	3%	18%	32%	47%	4.2	0%	3%	97%
組織学	2	3	95	0%	3%	6%	38%	53%	4.4	0%	3%	97%
神経解剖学概説	2	3	95	0%	2%	6%	40%	52%	4.4	0%	2%	98%
肉眼解剖学概説	1	2	95	0%	0%	0%	23%	77%	4.8	0%	0%	100%
肉眼解剖学	2	3	95	0%	0%	1%	15%	84%	4.8	0%	0%	100%
生化学	2	3	95	0%	0%	3%	24%	73%	4.7	0%	0%	100%
動物性機能生理学	2	3	95	0%	1%	8%	36%	55%	4.4	0%	1%	99%
植物性機能生理学	2	3	95	0%	1%	9%	32%	58%	4.5	0%	1%	99%
薬理学	3	4	95	0%	2%	5%	37%	56%	4.5	0%	2%	98%
微生物学	2	3	95	0%	0%	7%	39%	54%	4.5	0%	0%	100%
病理学	3	4	95	0%	0%	5%	37%	58%	4.5	0%	0%	100%
遺伝医学	3	4	95	0%	0%	9%	32%	59%	4.5	0%	0%	100%
平均			95.0	0%	1%	7%	34%	58%	4.5	0%	1%	99%
地域医療	3・4	4・5	95	0%	0%	7%	27%	65%	4.6	0%	0%	100%
消化器	3	4	95	0%	0%	2%	14%	84%	4.8	0%	0%	100%
呼吸器	3	4	95	0%	0%	2%	13%	85%	4.8	0%	0%	100%
循環器	3	4	95	0%	0%	1%	17%	82%	4.8	0%	0%	100%
代謝・内分泌・腎・泌尿器	3	4	95	0%	0%	1%	14%	85%	4.8	0%	0%	100%
血液・腫瘍・感染症	3	4	95	0%	2%	1%	12%	85%	4.8	0%	2%	98%
皮膚・膠原	3・4	4・5	95	0%	0%	2%	14%	84%	4.8	0%	0%	100%
運動・感覚器	4	5	95	0%	0%	4%	12%	84%	4.8	0%	0%	100%
精神・神経	4	5	95	0%	0%	3%	14%	83%	4.8	0%	0%	100%
小児・女性	4	5	95	0%	0%	3%	12%	85%	4.8	0%	0%	100%
救急・麻酔	4	5	95	0%	0%	1%	15%	84%	4.8	0%	0%	100%
社会医学・医療社会法制	4	5	95	0%	1%	4%	14%	81%	4.7	0%	1%	99%
臨床入門	3・4	4・5	95	0%	0%	5%	16%	79%	4.7	0%	0%	100%
医学英語(EMP)	3・4	4・5	95	0%	0%	4%	21%	75%	4.7	0%	0%	100%
平均			95.0	0%	0%	3%	15%	82%	4.8	0%	0%	100%

令和7年度 卒前アンケート			回 答 数	有効でない	何ともいえない	少しは有効	概ね有効	大いに有効	5 段階 評価	有効でない	何ともいえない	有効といえる
医学科				1	2	3	4	5		1	2	3+4+5
臨床実習科目科目評価				%	%	%	%	%		%	%	%
実習科目名	開講 年次	開講 年度 (令和)										
内科 (膠原病・リウマチ／脳神経)	5	6	95	0%	1%	1%	13%	85%	4.8	0%	1%	99%
内科 (血液／呼吸器)	5	6	95	0%	2%	1%	18%	79%	4.7	0%	2%	98%
内科 (循環器／腎臓)	5	6	95	1%	0%	2%	14%	83%	4.8	1%	0%	99%
内科 (消化器／肝・糖・内分泌)	5	6	95	0%	0%	2%	15%	83%	4.8	0%	0%	100%
内科 参加型	5・6	6・7	95	0%	0%	1%	9%	89%	4.9	0%	0%	100%
外科(脳神経)	5	6	95	0%	0%	4%	19%	77%	4.7	0%	0%	100%
外科(整形)	5	6	95	0%	0%	3%	15%	82%	4.8	0%	0%	100%
外科(泌尿器)	5	6	95	0%	0%	1%	17%	82%	4.8	0%	0%	100%
外科 4週間 (一般・消化器外科／胸部・心臓血管)	5・6	6・7	95	0%	1%	2%	9%	87%	4.8	0%	1%	99%
外科 2週間 (一般・消化器外科／胸部・心臓血管)	5・6	6・7	95	0%	0%	1%	11%	88%	4.9	0%	0%	100%
皮膚科	5	6	95	0%	0%	2%	19%	79%	4.8	0%	0%	100%
精神神経科	5・6	6・7	95	0%	0%	2%	17%	81%	4.8	0%	0%	100%
小児科	5・6	6・7	95	0%	0%	3%	14%	83%	4.8	0%	0%	100%
産科・婦人科	5・6	6・7	95	0%	0%	2%	14%	84%	4.8	0%	0%	100%
眼科	5	6	95	0%	2%	4%	17%	77%	4.7	0%	2%	98%
耳鼻咽喉科	5	6	95	0%	0%	2%	16%	82%	4.8	0%	0%	100%
放射線科・検査部	5	6	95	0%	0%	3%	19%	78%	4.7	0%	0%	100%
麻酔科・蘇生科・緩和・ペイン	5	6	95	0%	0%	2%	14%	84%	4.8	0%	0%	100%
救命救急センター(救急科)	5・6	6・7	95	0%	0%	1%	15%	84%	4.8	0%	0%	100%
総合診療部	5・6	6・7	95	1%	1%	1%	16%	81%	4.7	1%	1%	98%
選択 (形成・リハビリテーション・病理)	5	6	95	0%	1%	4%	15%	80%	4.7	0%	1%	99%
関連教育病院	5・6	6・7	95	0%	0%	2%	13%	85%	4.8	0%	0%	100%
地域医療	5・6	6・7	95	0%	0%	3%	12%	85%	4.8	0%	0%	100%
平均				0%	0%	2%	15%	83%	4.8	0%	0%	99.5%

医学科卒業直前アンケート 授業科目評価結果の年次推移

授業科目名 (H27入学～)	令和2年度卒業		令和3年度卒業		令和4年度卒業		令和5年度卒業		令和6年度卒業		令和7年度卒業	
	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%
医療入門Ⅰ	4.2	93	4.5	98	4.0	92%	4.4	98%	4.5	95%	4.3	96%
英語	3.9	91	4.0	94	3.7	92%	3.9	89%	4.1	95%	3.6	81%
ドイツ語Ⅰ	3.5	73	3.4	68	—	—	—	—	—	—	—	—
フランス語Ⅰ	4.3	92	4.7	100	—	—	—	—	—	—	—	—
中国語Ⅰ	4.0	90	3.8	84	—	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮語Ⅰ	4.3	95	4.3	100	—	—	—	—	—	—	—	—
情報基礎概論	3.9	89	4.1	93	3.7	84%	3.9	94%	4.2	97%	3.7	86%
情報基礎演習Ⅰ	3.9	88	4.1	93	3.7	84%	3.9	95%	4.2	90%	3.7	85%
平均	4.0	89	4.1	91	3.8	88%	4.0	94%	4.2	94%	3.8	87%
生命倫理学	4.1	93	4.3	94	3.9	88%	4.2	96%	4.5	97%	4.3	96%
医療心理学	4.0	92	4.2	92	3.8	85%	4.1	94%	4.4	97%	—	—
医療と生活支援技術	4.2	96	4.4	94	3.8	86%	4.1	96%	4.4	97%	—	—
生活医療福祉学	4.1	95	4.4	95	3.8	86%	4.1	94%	4.3	97%	—	—
行動科学原論	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.1	94%
医療入門Ⅱ	4.2	94	4.5	97	4.0	92%	4.4	97%	4.5	98%	4.3	97%
医療統計学	4.1	94	4.4	97	3.9	89%	4.1	94%	4.3	96%	4.0	96%
物理学	3.8	83	3.7	76	3.3	74%	3.2	68%	3.8	83%	3.1	62%
化学	3.9	88	3.8	84	3.6	81%	3.5	83%	4.0	93%	3.6	80%
生物学	4.0	92	4.1	95	3.7	83%	3.9	92%	4.3	99%	4.0	92%
平均	4.0	92	4.2	92	3.8	85%	4.0	90%	4.3	95%	3.9	88%
分子細胞生物学Ⅰ	4.2	97	4.4	98	4.0	93%	4.2	98%	4.5	100%	4.4	99%
分子細胞生物学Ⅱ	4.2	97	4.4	98	4.0	93%	4.2	99%	4.5	99%	4.3	99%
分子細胞生物学Ⅲ	4.3	97	4.5	98	4.1	95%	4.3	99%	4.5	99%	4.4	99%
免疫学	4.4	97	4.6	100	4.2	94%	4.5	100%	4.5	100%	4.5	100%
人体発生学	4.3	96	4.4	98	3.8	89%	4.2	98%	4.3	97%	4.2	97%
組織学	4.4	97	4.5	99	4.1	92%	4.5	99%	4.4	97%	4.4	97%
神経解剖学概説	4.3	97	4.5	97	4.0	89%	4.4	100%	4.5	99%	4.4	98%
肉眼解剖学概説	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.8	100%
肉眼解剖学	4.5	98	4.8	100	4.4	94%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
生化学	4.4	98	4.6	98	4.2	93%	4.5	100%	4.7	100%	4.7	100%
動物性機能生理学	4.3	98	4.5	98	4.3	94%	4.5	100%	4.5	99%	4.4	99%
植物性機能生理学	4.4	98	4.5	98	4.2	94%	4.4	99%	4.6	100%	4.5	99%
薬理学	4.2	97	4.5	96	4.1	93%	4.2	97%	4.5	100%	4.5	98%
微生物学	4.3	98	4.5	98	4.1	94%	4.3	100%	4.5	100%	4.5	100%
病理学	4.4	98	4.5	98	4.3	94%	4.5	99%	4.6	100%	4.5	100%
遺伝医学	4.3	97	4.5	99	4.2	93%	4.4	99%	4.5	100%	4.5	100%
平均	4.3	97	4.5	98	4.1	93%	4.4	99%	4.5	99%	4.5	99%
地域医療	4.5	99	4.6	96	4.1	91%	4.6	99%	4.6	98%	4.6	100%
消化器	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
呼吸器	4.6	100	4.8	100	4.4	94%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
循環器	4.7	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
代謝・内分泌・腎・泌尿器	4.7	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
血液・腫瘍・感染症	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	98%
皮膚・膠原	4.6	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
運動・感覚器	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
精神・神経	4.7	100	4.8	99	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
小児・女性	4.6	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
救急・麻酔	4.6	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
社会医学・医療社会法制	4.6	99	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.6	99%	4.7	99%
臨床入門	4.6	100	4.7	98	4.3	94%	4.7	100%	4.7	100%	4.7	100%
医学英語	4.5	99	4.4	96	4.2	92%	4.4	98%	4.7	99%	4.7	100%
平均	4.6	100	4.7	99	4.4	94%	4.7	100%	4.7	100%	4.8	100%

医学科卒業直前アンケート 実習科目評価結果の年次推移

実習科目名 (H27入学～)	令和2年度卒業		令和3年度卒業		令和4年度卒業		令和5年度卒業		令和6年度卒業		令和7年度卒業	
	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%
内科(膠原病・リウマチ／神経)	4.7	100	4.7	98	4.8	99%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	99%
内科(血液／呼吸器)	4.5	96	4.6	97	4.7	98%	4.6	100%	4.7	99%	4.7	98%
内科(循環器／腎臓)	4.7	100	4.7	96	4.8	99%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	99%
内科(消化器／肝・糖・内分泌)	4.6	100	4.7	96	4.8	99%	4.7	100%	4.8	99%	4.8	100%
内科 参加型	4.6	98	4.8	99	4.8	99%	4.7	100%	4.9	99%	4.9	100%
外科(脳・神経)	4.5	96	4.5	93	4.6	98%	4.6	99%	4.8	100%	4.7	100%
外科(整形)	4.6	99	4.7	99	4.7	99%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
外科(泌尿器)	4.6	99	4.7	98	4.7	98%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
外科 4週間	4.6	100	4.7	99	4.7	97%	4.7	99%	4.9	100%	4.8	99%
外科 2週間	4.6	100	4.7	98	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%	4.9	100%
皮膚科	4.5	96	4.7	98	4.6	98%	4.4	97%	4.7	100%	4.8	100%
精神神経科	4.6	100	4.8	99	4.6	97%	4.5	97%	4.7	100%	4.8	100%
小児科	4.6	99	4.7	99	4.7	97%	4.6	99%	4.9	100%	4.8	100%
産科・婦人科	4.6	100	4.8	99	4.6	98%	4.7	99%	4.9	100%	4.8	100%
眼科	4.5	98	4.7	100	4.6	97%	4.5	97%	4.7	100%	4.7	98%
耳鼻咽喉科	4.6	99	4.7	99	5.1	96%	4.6	98%	4.8	100%	4.8	100%
放射線科・検査部	4.5	98	4.7	100	4.6	97%	4.4	97%	4.8	100%	4.7	100%
麻酔科・蘇生科・緩和・ペイン	4.5	99	4.7	98	4.7	98%	4.6	98%	4.8	100%	4.8	100%
救急救命センター(救急科)	4.7	100	4.8	99	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%	4.8	100%
総合診療部	4.7	100	4.8	98	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%	4.7	98%
選択(形成・リハ・病理)	4.6	99	4.7	99	5.1	96%	4.6	98%	4.8	100%	4.7	99%
関連教育病院	4.7	100	4.8	99	4.7	98%	4.7	98%	4.8	100%	4.8	100%
地域医療	4.6	99	4.8	99	4.6	97%	4.7	99%	4.8	100%	4.8	100%
平均	4.6	98.9	4.7	98.2	4.7	99%	4.6	99%	4.8	100%	4.8	100%

令和7年度 卒前アンケート (2025年度)		回 答 数	有効でない 1	何ともいえない 2	少しは有効 3	概ね有効 4	大いに有効 5	5段階評価 (平均)	有効でない 1	何ともいえない 2	有効といえる 3～5
看護学科 授業科目評価	4.0以上 90%以上										
	3.0以下										
授業科目名	開講 年次										
基礎看護学実習Ⅰ	1	57	0%	0%	2%	18%	81%	4.8	0%	0%	100%
基礎看護学実習Ⅱ	2	57	0%	0%	2%	12%	86%	4.8	0%	0%	100%
成人看護学実習	3	57	0%	0%	2%	4%	95%	4.9	0%	0%	100%
老年看護学実習	3	57	0%	0%	2%	4%	95%	4.9	0%	0%	100%
小児看護学実習	3	57	0%	0%	2%	4%	95%	4.9	0%	0%	100%
母性看護学実習	3	57	0%	0%	5%	7%	88%	4.8	0%	0%	100%
精神看護学実習	3	57	0%	0%	4%	4%	93%	4.9	0%	0%	100%
在宅看護論実習	3	57	0%	0%	2%	7%	91%	4.9	0%	0%	100%
地域連携実習	3	57	0%	0%	2%	7%	91%	4.9	0%	0%	100%
統合実習	4	57	0%	0%	2%	7%	91%	4.9	0%	0%	100%
カウンセリングとメンタルヘルス(選)	3	45	0%	0%	4%	33%	62%	4.6	0%	0%	100%
保健医療福祉行政論(選)	3	42	0%	2%	2%	26%	69%	4.6	0%	2%	98%
公衆衛生看護学概論	1	51	0%	0%	4%	24%	73%	4.7	0%	0%	100%
公衆衛生看護学活動展開論(選)	2	46	0%	0%	2%	22%	76%	4.7	0%	0%	100%
保健統計学Ⅰ	2	51	0%	0%	10%	29%	61%	4.5	0%	0%	100%
保健統計学Ⅱ(選)	4	28	0%	0%	0%	29%	71%	4.7	0%	0%	100%
災害看護論・チーム医療(選)	4	34	3%	0%	3%	15%	79%	4.7	3%	0%	97%
国際保健看護論(選)	4	30	3%	3%	3%	30%	60%	4.4	3%	3%	93%
疫学Ⅰ	2	54	0%	0%	11%	31%	57%	4.5	0%	0%	100%
疫学Ⅱ(選)	3	34	0%	0%	6%	32%	62%	4.6	0%	0%	100%
個人と家族の健康支援論(選)	2	44	0%	0%	11%	16%	73%	4.6	0%	0%	100%
集団と地域の健康支援論(選)	3	29	0%	0%	0%	21%	79%	4.8	0%	0%	100%
地域ケアシステム論(選)	3	29	0%	0%	0%	24%	76%	4.8	0%	0%	100%
公衆衛生看護管理論(選)	3	29	0%	0%	0%	24%	76%	4.8	0%	0%	100%
産業看護活動論(選)	3	29	0%	0%	0%	28%	72%	4.7	0%	0%	100%
公衆衛生看護学演習	4	28	0%	0%	0%	18%	82%	4.8	0%	0%	100%
公衆衛生看護学実習Ⅰ(選)	4	28	0%	0%	0%	11%	89%	4.9	0%	0%	100%
公衆衛生看護学実習Ⅱ(選)	4	28	0%	0%	0%	11%	89%	4.9	0%	0%	100%
地域母子保健(選)	3	8	0%	0%	13%	25%	63%	4.5	0%	0%	100%
助産学概論Ⅰ(選)	2	16	0%	0%	6%	13%	81%	4.8	0%	0%	100%
助産学概論Ⅱ(選)	3	10	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
周産期学Ⅱ(選)	2	14	0%	0%	0%	14%	86%	4.9	0%	0%	100%
助産診断・技術学(選)	3	7	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産技術演習Ⅰ(選)	3	7	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産技術演習Ⅱ(選)	3	7	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産技術演習Ⅲ(選)	4	6	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産管理Ⅰ(選)	3	7	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産管理Ⅱ(選)	4	6	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産学実習(選)	4	6	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%

看護学科卒前アンケート 授業科目評価結果の推移

3.0以下

授業科目名	R3年度卒業		R4年度卒業		R5年度卒業		R6年度卒業		R7年度卒業	
	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%
大学入門科目Ⅰ(看護学入門)	4.3	95%	4.3	98%	4.3	100%	4.0	98%	4.4	98%
英語A	3.6	85%	3.3	76%	3.4	79%	2.8	57%	3.2	74%
英語B	3.6	85%	3.4	78%	3.2	78%	2.5	42%	3.2	72%
英語C	3.5	84%	3.6	87%	3.3	81%	2.8	56%	3.3	73%
英語D	3.5	85%	3.5	78%	3.3	79%	2.5	42%	3.2	74%
情報基礎概論	3.7	93%	3.9	93%	4.3	100%	3.4	79%	3.7	89%
平均	3.7	87.9%	3.7	84.9%	3.6	86.2%	3.0	62.3%	3.5	80.0%
人体の構造と機能(解剖学・生理学)	4.8	98%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
人体の構造と機能(生化学)	4.6	98%	4.5	100%	4.7	100%	4.3	100%	4.7	100%
微生物学・寄生虫学	4.5	98%	4.2	98%	4.6	100%	4.2	98%	4.5	100%
栄養学	4.3	96%	4.3	100%	4.4	100%	4.0	98%	4.4	100%
病理学	4.4	98%	4.5	100%	4.5	100%	4.2	97%	4.6	100%
臨床薬理学	4.5	100%	4.4	100%	4.7	100%	4.5	98%	4.7	100%
病態・疾病論(Ⅰ～Ⅵ)	4.6	98%	4.6	100%	4.6	100%	4.5	98%		
病態・疾病論(Ⅶ～Ⅹ)	4.6	98%	4.6	100%	4.6	100%	4.5	98%		
病態・疾病論									4.7	100%
リハビリテーション概論	4.3	100%	4.4	100%	4.4	100%	4.1	98%	4.6	98%
ヒトの遺伝の基礎と遺伝相談(選)	4.2	97%	4.2	95%	4.3	95%	3.7	92%		
遺伝看護学(選)									4.4	100%
看護倫理	4.5	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.5	100%	4.6	100%
看護英語(選)	4.4	94%	4.3	96%						
キャリア・デザイン	4.5	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.1	98%	4.3	96%
看護研究入門	4.2	98%	4.4	98%	4.5	100%	4.0	95%		
平均	4.5	98.1%	4.4	99.1%	4.6	99.6%	4.3	97.9%	4.6	99.5%
コミュニケーション論	4.4	98%	4.4	98%	4.3	100%	4.0	93%	4.3	100%
クリティカルシンキング論	4.6	100%	4.5	100%	4.8	100%	4.6	100%		
看護過程論	4.6	100%	4.6	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.8	100%
基礎看護技術Ⅰ	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.9	100%
基礎看護技術Ⅱ	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.9	100%	4.9	100%
基礎看護技術Ⅲ	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.9	100%	4.9	100%
看護制度・看護管理	4.4	98%	4.5	100%	4.6	100%	4.6	100%		
看護管理									4.6	100%
フィジカルアセスメントⅠ									4.8	100%
フィジカルアセスメントⅡ(選)	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
平均	4.6	99.5%	4.7	99.7%	4.8	100.0%	4.6	99.0%	4.8	100.0%
成人看護学概論	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%	4.8	100%
老年看護学概論	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.8	100%
成人看護学援助論Ⅰ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
成人看護学援助論Ⅱ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.8	100%
成人看護学援助論Ⅲ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.8	100%
成人・老年看護学演習	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%				
成人看護学演習							4.7	100%	4.9	100%
老年看護学演習							4.7	100%	4.9	100%
老年看護学援助論	4.6	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
長寿と健康(選)	4.5	97%	4.7	100%	4.4	95%	4.5	100%	4.5	100%
小児看護学概論	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.7	100%
多様な親子への支援Ⅰ									4.5	100%
多様な親子への支援Ⅱ	4.1	96%	4.5	100%	4.3	95%	4.1	97%	4.6	100%
小児発達援助論	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.6	100%		
小児看護学援助論	4.3	93%	4.4	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.8	100%
小児看護学演習	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.6	100%	4.8	100%
小児看護臨床実践論(選)	4.4	95%	4.5	100%	4.5	95%	4.5	100%	4.8	100%
母性看護学概論	4.4	95%	4.4	100%	4.6	100%	4.4	100%	4.8	100%
周産期学Ⅰ	4.4	98%	4.4	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.8	100%
母性看護学援助論Ⅰ	4.5	100%	4.4	98%	4.6	100%	4.4	100%	4.8	100%
母性看護学援助論Ⅱ	4.5	98%	4.5	100%	4.6	100%	4.5	100%	4.8	100%
精神看護学概論	4.5	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.5	100%	4.8	100%
精神看護学援助論Ⅰ	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%	4.8	100%
精神看護学援助論Ⅱ	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%	4.8	100%
平均	4.5	97.7%	4.6	99.5%	4.7	99.3%	4.6	99.9%	4.8	100.0%

未開講

授業科目名	R3年度卒業		R4年度卒業		R5年度卒業		R6年度卒業		R7年度卒業	
	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%
在宅看護概論	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.4	100%	4.7	100%
在宅看護援助論	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.5	100%	4.7	100%
在宅看護援助論Ⅰ									4.7	100%
在宅看護援助論Ⅱ	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.5	100%	4.7	100%
在宅看護援助論Ⅲ	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.4	100%	4.7	100%
生活行動支援論(選)										
先端医療論(選)	4.4	94%								
地域医療支援論	4.5	98%	4.7	100%	4.6	100%	4.3	100%		
医療安全論(選)	4.5	97%	4.7	100%	4.6	98%	4.4	98%		
コミュニティ・ヘルスケア(選)									4.6	96%
重症・救急看護学(選)	4.7	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.7	100%	4.7	93%
健康教育論	4.3	96%	4.5	100%	4.5	100%	4.3	98%	4.5	100%
家族看護学(選)	4.5	98%	4.5	100%	4.7	100%	4.2	100%		
看護研究方法論	4.2	98%	4.4	98%	4.5	100%	4.0	95%	4.6	100%
看護研究(公衆衛生看護学コース)									4.4	97%
看護研究(助産学コース)									5.0	100%
卒業研究	4.3	95%	4.5	98%	4.7	100%	4.2	93%	4.7	97%
平均	4.5	98.0%	4.6	99.7%	4.7	99.8%	4.3	98.6%	4.7	98.5%
基礎看護学実習Ⅰ	4.6	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.8	100%
基礎看護学実習Ⅱ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.8	100%
成人看護学実習	4.9	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
老年看護学実習	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
小児看護学実習	4.6	95%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
母性看護学実習	4.7	100%	4.5	96%	4.8	100%	4.6	97%	4.8	100%
精神看護学実習	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
在宅看護論実習	4.7	98%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
地域連携実習									4.9	100%
統合実習	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%
平均	4.7	99.2%	4.8	99.6%	4.8	100.0%	4.8	99.6%	4.9	100.0%
カウンセリングとメンタルヘルス(選)	4.3	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.2	98%	4.6	100%
保健医療福祉行政論(選)	4.3	98%	4.6	100%	4.4	100%	4.3	100%	4.6	98%
公衆衛生看護学概論	4.3	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.4	100%	4.7	100%
公衆衛生看護学活動展開論(選)	4.3	98%	4.5	98%	4.6	100%	4.4	100%	4.7	100%
保健統計学Ⅰ	4.2	96%	4.3	96%	4.2	96%	3.8	84%	4.5	100%
保健統計学Ⅱ(選)	4.2	97%	4.3	95%	4.3	95%	4.2	100%	4.7	100%
災害看護学・チーム医療(選)	4.5	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.5	100%	4.7	97%
国際保健看護論(選)	4.6	100%	4.6	100%	4.6	94%	4.2	96%	4.4	93%
疫学Ⅰ	4.4	100%	4.5	98%	4.5	98%	4.1	97%	4.5	100%
疫学Ⅱ(選)	4.3	100%	4.5	98%	4.5	98%	4.3	97%	4.6	100%
個人と家族の健康支援論(選)	4.2	100%	4.5	96%	4.5	100%	4.2	98%	4.6	100%
集団と地域の健康支援論(選)	4.3	97%	4.5	98%	4.7	100%	4.5	100%	4.8	100%
地域ケアシステム論(選)	4.3	97%	4.5	97%	4.7	100%	4.5	100%	4.8	100%
公衆衛生看護管理論(選)	4.2	95%	4.5	97%	4.8	100%	6.0	93%	4.8	100%
産業看護学活動論(選)	4.3	100%	4.5	100%	4.8	100%	4.5	100%	4.7	100%
公衆英英看護学演習(選)										
公衆衛生看護学実習Ⅰ(選)	4.7	100%	4.6	97%	5.0	100%	4.8	100%	4.9	100%
公衆衛生看護学実習Ⅱ(選)	4.5	100%	4.6	97%	5.0	100%	4.7	100%	4.9	100%
平均	4.4	98.7%	4.5	98.1%	4.6	98.9%	4.4	97.8%	4.7	99.3%
地域母子保健(選)	4.3	100%	4.5	100%	4.5	97%	4.1	97%	4.5	100%
新生児看護(選)	4.4	96%	4.4	97%	4.4	97%	4.2	100%		
助産学概論Ⅰ(選)	4.4	96%	4.3	96%	4.7	96%	4.5	100%	4.8	100%
助産学概論Ⅱ(選)	4.6	100%	4.4	95%	4.7	94%	4.6	100%	5.0	100%
周産期学Ⅱ(選)	4.6	100%	4.3	95%	4.7	95%	4.5	100%	4.9	100%
助産診断・技術学(選)	4.1	88%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%	5.0	100%
助産技術演習Ⅰ(選)	4.4	100%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%	5.0	100%
助産技術演習Ⅱ(選)	4.4	100%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%	5.0	100%
助産技術演習Ⅲ(選)									5.0	100%
助産管理Ⅰ(選)	4.6	100%	4.6	100%	4.6	91%	5.0	100%	5.0	100%
助産管理Ⅱ(選)	4.6	100%	4.6	100%	4.4	80%	5.0	100%	5.0	100%
助産学実習(選)	4.7	100%	4.2	92%	4.4	80%	5.0	100%	5.0	100%
平均	4.5	98.2%	4.5	97.7%	4.6	91.0%	4.7	99.7%	4.9	100.0%

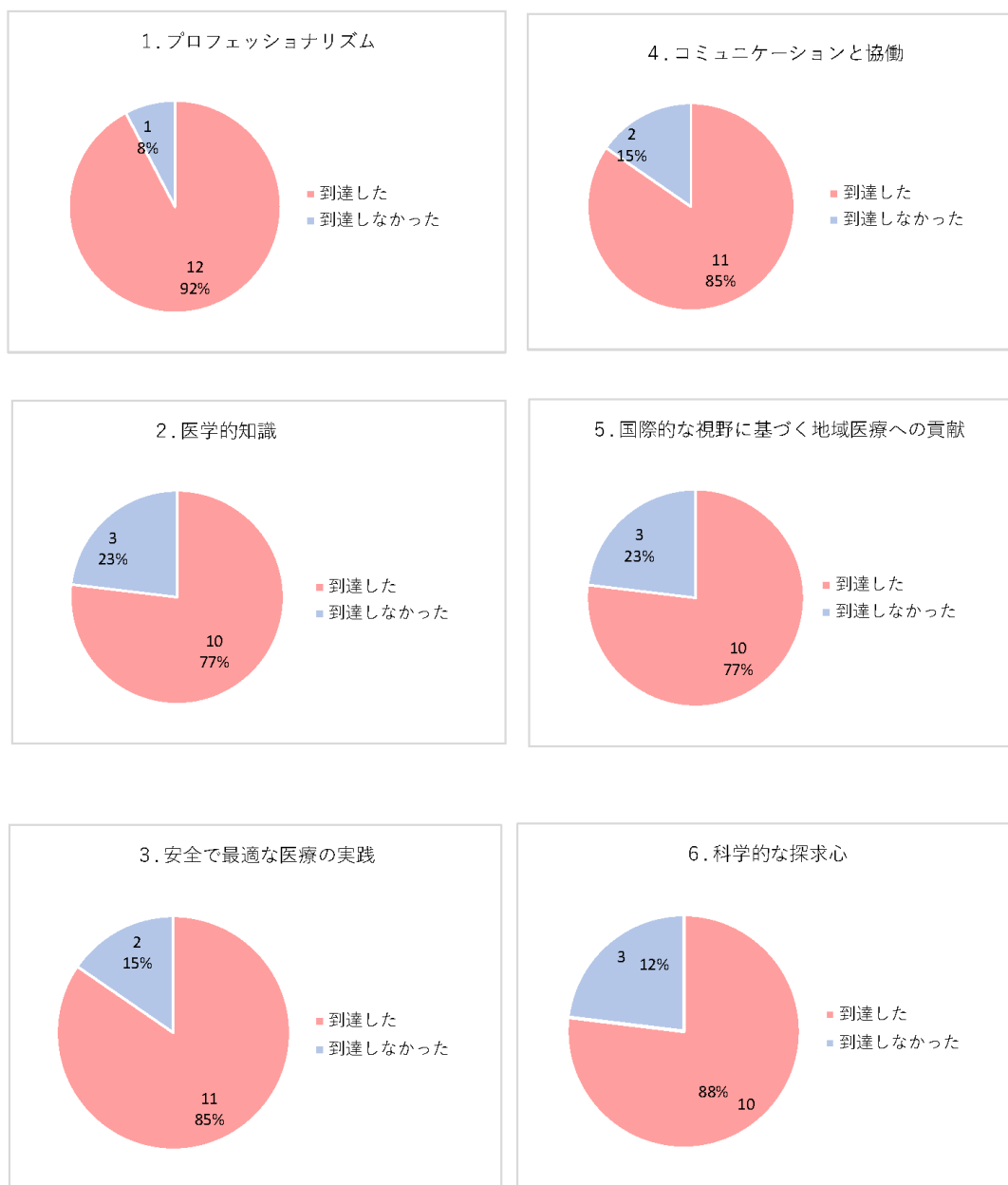
未開講
未開講

B. 卒業（修了）生からの意見聴取

医学科及び看護学科を卒業して2年経過した者に対して、アンケートを実施している。

令和8年3月実施（令和6年3月卒業）

「医学科の卒業時学修成果の内容」（卒業時に備えた能力）



【コメント】

1. プロフェッショナルリズム（コメントなし）
2. 医学的知識
（コメントなし）
3. 安全で最適な医療の実践
（コメントなし）
4. コミュニケーションと協働
（コメントなし）
5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
（コメントなし）
6. 科学的な探求心
（コメントなし）

その他

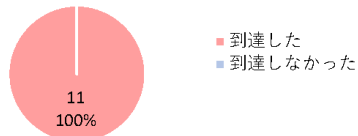
臨床実習コーディネーターの役割は素晴らしいものと思いますが、一方で実習生から「アンプロフェッショナルポイント」なるものを耳にしました。確かにアンプロフェッショナルな行為は良くないものではありませんが、そもそもそれを是正するための医学教育であり、あらかじめプロフェッショナリズムが完璧に備わっているものとして実習態度を評価、ましてそれで留年とするのはどうかと思っています。現に、私たち現役の医師も法に触れる違反は糾弾されるとしても、遅刻や身だしなみの悪さだとかそうしたものはあり得ると思いますし、それで1年間の停職処分となるのは稀だと考えます。そもそも医学部医学科は医師養成学校ではなくあくまでも医学を学ぶ研究機関に過ぎないと思っています。致し方のない生徒もいたのかもしれませんが、真面目な学生程不必要に怯えている側面もあるのでもう少し基準を明確にするなどしていただければ実習が明るくなるのではと存じます。

令和8年3月実施（令和6年3月卒業）

「看護学科教育目標・卒業時学習成果」

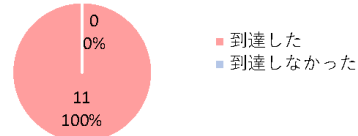
【教育目標】

1. 豊かな感性を備え、人を尊重する態度



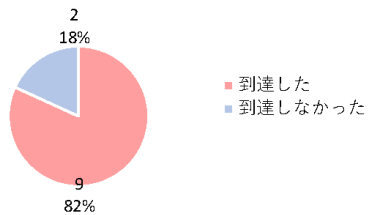
【卒業時アウトカム】

1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力



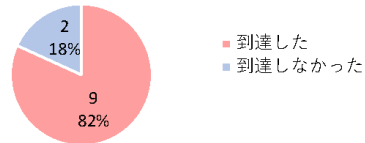
【教育目標】

2. 看護知識と技術の修得



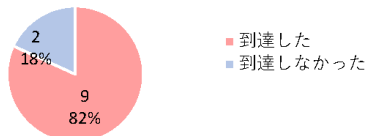
【卒業時アウトカム】

2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力



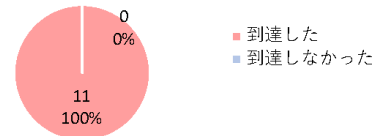
【教育目標】

3. 自ら考え解決する習慣



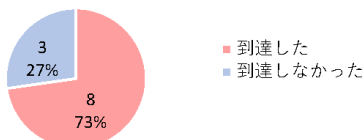
【卒業時アウトカム】

3. 特定の健康課題に対応する実践能力



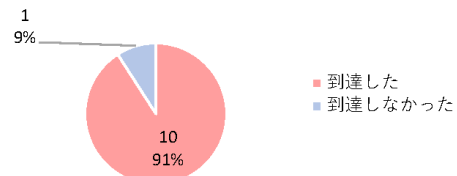
【教育目標】

4. 保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力



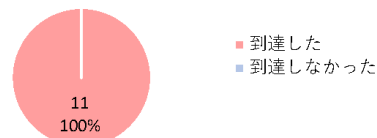
【卒業時アウトカム】

4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力



【卒業時アウトカム】

5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力



<コメント>

【教育目標】

1. 豊かな感性を備え、人を尊重する態度（コメントなし）
2. 看護知識と技術の修得（コメントなし）
3. 自ら考え解決する習慣
講義や実習で知識を学び、考えることはできていたと思いますが解決するまでには至っていませんでした。事例検討の機会がもっと増えると良いのかなと思いました。
実際の看護の場で解決するには、実地における経験が必要だと思う。
4. 保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力
働いていく中で徐々に獲得できるものだと思うため、卒前教育では特になし

【卒業時アウトカム】

1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力（コメントなし）
2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力（コメントなし）
3. 特定の健康課題に対応する実践能力（コメントなし）
4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力（コメントなし）
5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力（コメントなし）
6. その他
コロナ禍ではありましたが、その中でできる最大限体験したり知識を深めたり出来ていたのだと卒業してすごく感じています

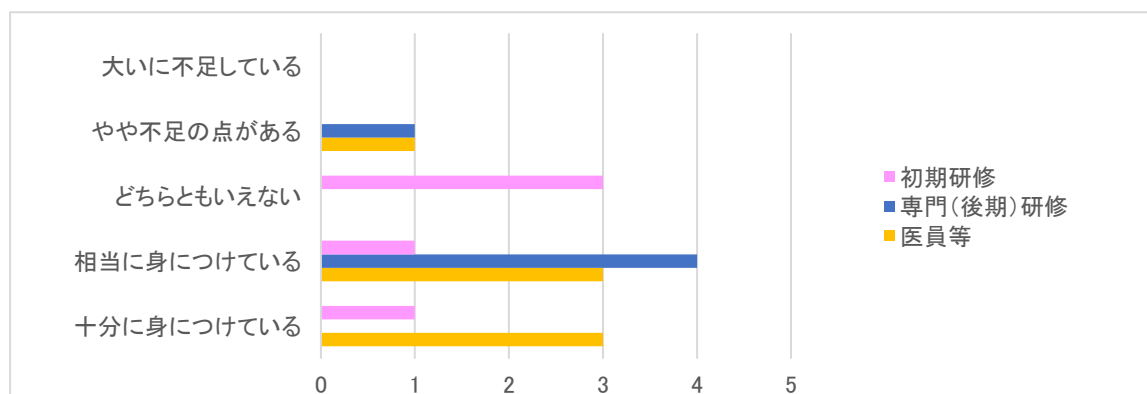
C. 就職先等からの意見聴取

県内医療機関に医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケートを実施している。

佐賀大学医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケート

《医学科卒業生に関するアンケート》

1. 診療等に必要な学力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか。



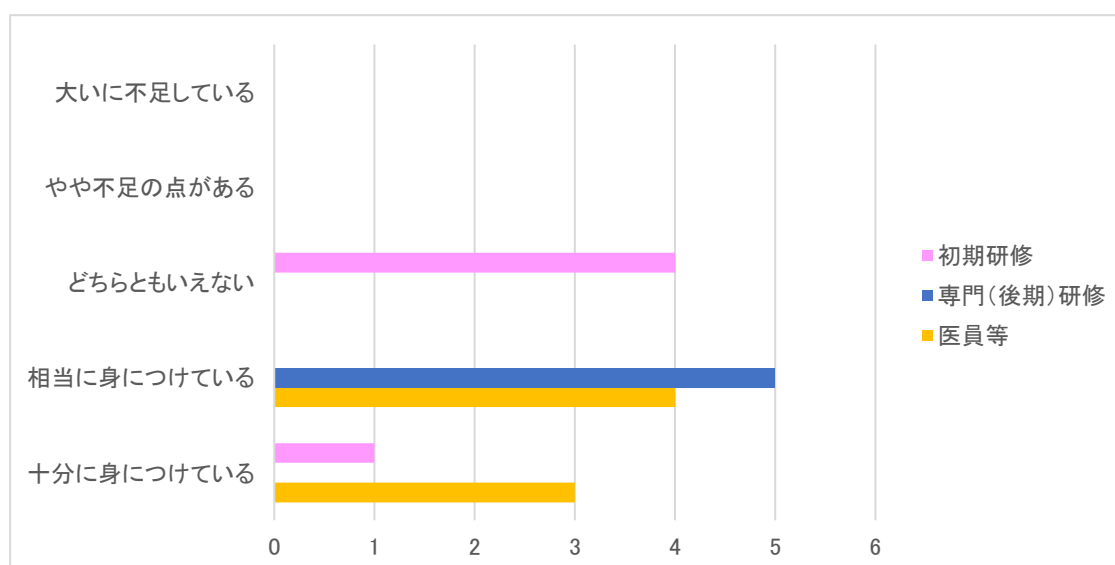
【優れている点】

初期研修	・ 国家試験の学力と実診療に必要な学力は多少異なるので、知識が乏しくとも、これから学べば全く問題ない ・ 向上心を持って研修してくれている ・ 当院には2か月間の精神科研修で見えますが、さすがに精神科の診療が身についていることはありません。身体的診療については、ある程度身に付けている方もいらっしゃいます
専門（後期）研修	・ 検索の方法を熟知しているので、知識不足でもすぐに調べて問題になることはない ・ 専門分野での貢献にはとても助かっています ・ 初期研修を終えて精神科研修を始める方、他科から転科して精神科研修を始める方がいますが、身体的な学力は相当にあるいは十分身についており、精神科に関してはこれからだと思います ・ 診療に必要な学力はほぼ身に付けている
医員等	・ 専門分野での貢献にはとても助かっています ・ 学力は十分身についている ・ 各分野で十分な学力を備えられています ・ 診療に必要な学力はほぼ身に付けている

【改善点・不足している点】

- ・ 少し自分の専門外であると学ぼうという気概を感じない

2. 診療等に必要な技術を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



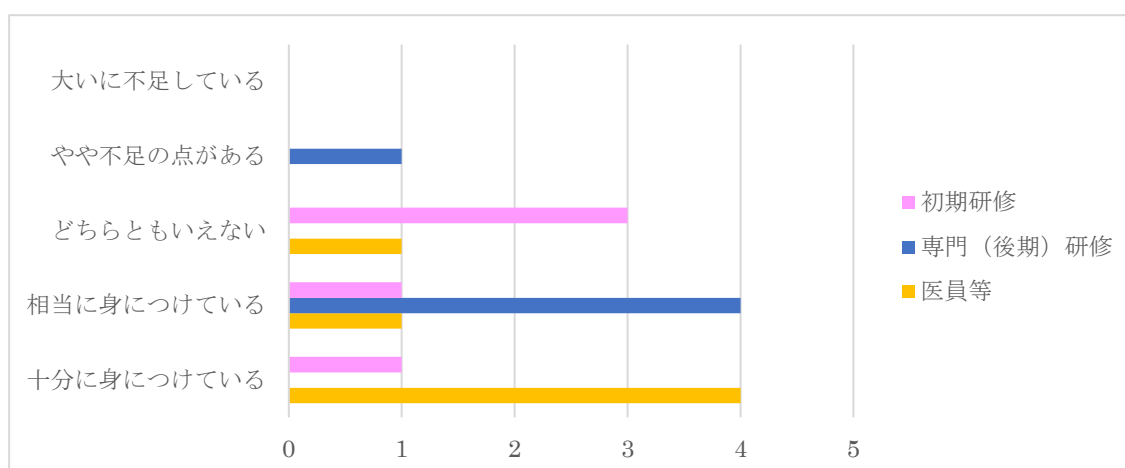
【優れている点】

初期研修	・これからです ・医師としてのスキルには特に問題なしと思います ・当院には2か月間の精神科研修で見えますが、さすがに精神科の診療が身についていることはありません。身体的診療については、ある程度身に付けている方もいらっしゃいます
専門（後期）研修	・専門分野はよく勉強し、手技も習得中です ・医師としてのスキルには特に問題なしと思います ・初期研修を終えて精神科研修を始める方、他科から転科して精神科研修を始める方がいますが、身体的な学力は相当にあるいは十分身に付けており、精神科に関してはこれからだと思います ・診療に必要な技術はほぼ身に付けている
医員等	・技術面の不足は感じない ・医師としてのスキルには特に問題なしと思います ・各分野で十分な学力を備えられています ・診療に必要な技術はほぼ身に付けている

【改善点・不足している点】

- ・特になし

3. 診療等に必要な問題解決能力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



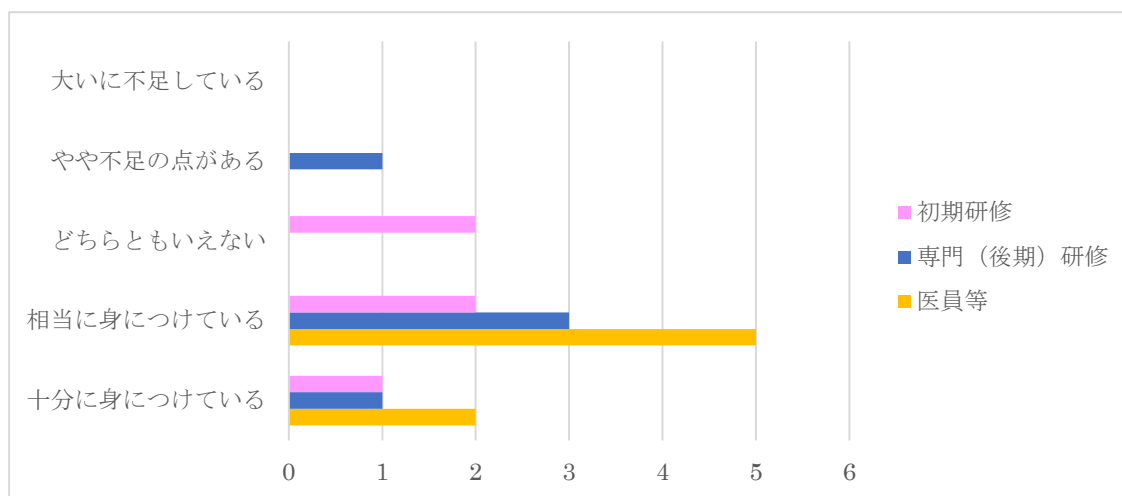
【優れている点】

初期研修	・頑張っています。上級医師とのコミュニケーションも取れています。 ・当院には2か月間の精神科研修で見えますが、さすがに精神科の診療が身についていることはありません。身体的診療については、ある程度身に付けている方もいらっしゃいます
専門（後期）研修	・他科へのコンサルトができています。 ・良好です。 ・各分野で十分な学力を備えられています ・診療に必要な問題解決能力はほぼ身に付けている
医員等	・良好です。

【改善点・不足している点】

- ・当該科内での検討を行うことなく、コンサルトに頼ってばかりの医師がいる。
- ・力不足な面も見られます。特に自分のキャパを超えた時に。

4. 診療等に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



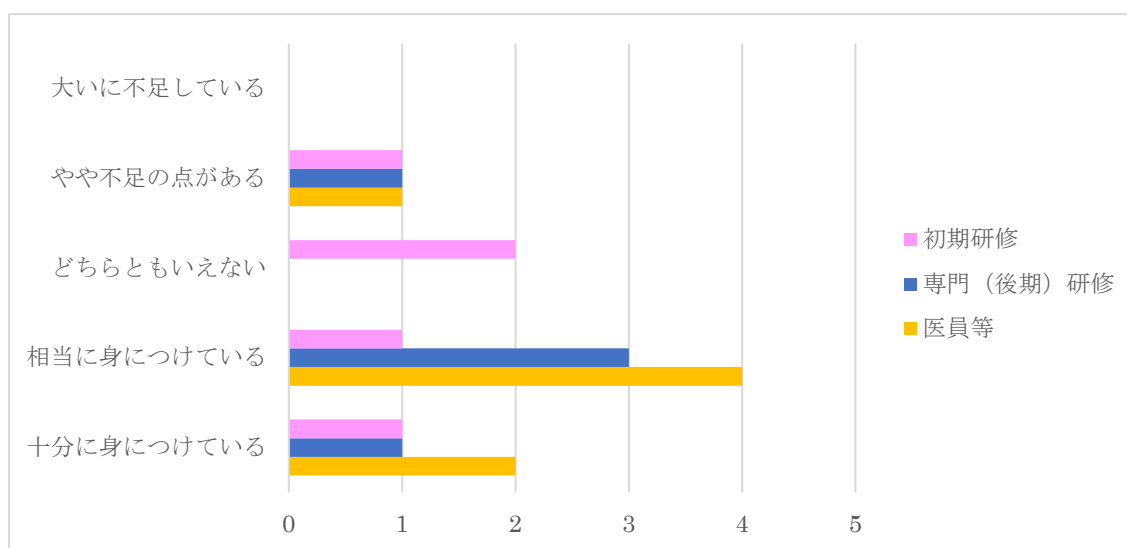
【優れている点】

初期研修	・コメディカルなどとの連携も充分やってくれています ・当院の精神科研修は2か月であるため、精神科診療を学びたいと意欲のある初期研修医が選択していることもあると思うが積極的に研修し、問題はない
専門（後期）研修	・他大学卒業生の中には問題のある後期研修医もいて、指導が必要ですが、佐賀大学出身の後期研修医には特に問題はなく、素晴らしいと思います ・診療に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質はほぼ身に付けている
医員等	・最低限の医療倫理に欠けている医師はいない ・しっかり説明などは出来ていると思います ・研修医、専攻医の模範となっています ・診療に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質はほぼ身に付けている

【改善点・不足している点】

- ・全人的な判断が不足している医師がいる
- ・全員という訳ではないですが、個人的に能力が足りない方もいます。

5. チーム医療に必要な協調性・リーダーシップ等をどの程度身に付けていますか？



【優れている点】

初期研修	・ 人によって差があります
専門（後期）研修	・ コミュニケーション能力が普通以上にあり、他職種との連携も上手にできる先生が多いです ・ チーム医療に必要な協調性、リーダーシップ等はほぼ身に付けている
医員等	・ 科内で解決しない病態、病状についてチーム医療が行えている ・ 研修医、専攻医の模範となっています ・ チーム医療に必要な協調性、リーダーシップ等はほぼ身に付けている

【改善点・不足している点】

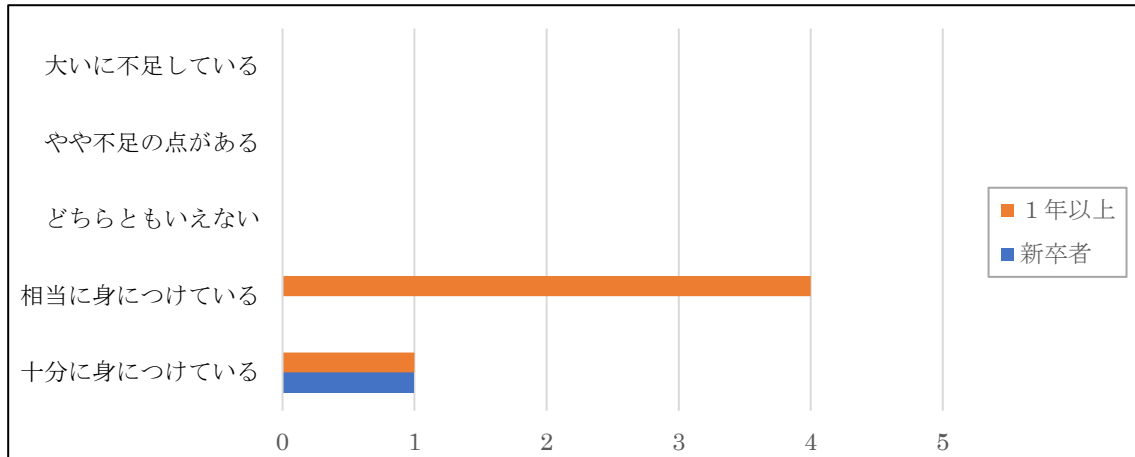
- ・ 自分のノルマは達成するが、それ以上の俯瞰的視点に欠ける傾向があります

6. その他（自由記載）

- ・精神科には身体治療が不得手であったり、全体的なパフォーマンスが低かったり、コミュニケーションに難があったりする学生、研修医「精神科にでも進みなさい」といった勧められ方をして専攻することも少なからずあると思います。しかし、精神疾患はまず身体疾患の除外が前提ですので、身体診療も身に付けておくべきですし、難治の精神疾患、攻撃性の高い患者さんへの対応には相当なエネルギーを備えておく必要もあります。他職種、医療機関以外の方との協働も多く、協調性、リーダーシップ、良好なコミュニケーション能力が必要です。他大学卒業生の中にはこれらの能力がかなり問題のある方もいますが、佐賀大学卒業生にはそのような方はほとんどいません。大学教育の素晴らしさはともに入試が理系科目に偏り過ぎず、文系よりの学生が取り込めていること、いたこと、が良いのではないのかと思います。今後もコミュニケーション能力の高い、倫理観をしっかり持った医師の育成をお願いいたします。
- ・佐賀大学卒の初期研修医に関しては（女性が多いためか）、皆さん優しく真面目で熱心です。当院は少人数制なので国家試験合格の必要最小限の知識があれば、手取り足取り指導いたします。当院は佐賀大学派遣の医師が多く、クラブの先輩後輩とか、垣根なく仲が良く、医療だけでなく日常生活（アフター５）の情報なども共有し、楽しんで研修も行っているようです。
- ・専攻医や医員が複数の場合は個人差があり、一律に評価は困難と思われます

佐賀大学医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケート
《看護学科卒業生に関するアンケート》

1. 療養支援等に必要な学力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



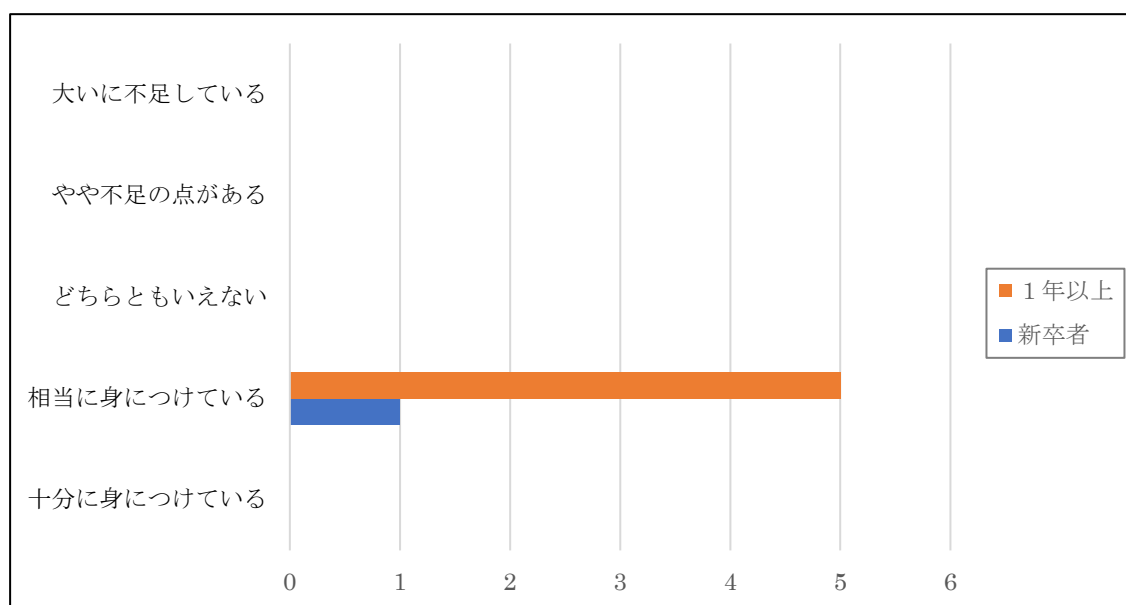
【優れている点】

新卒者	・ 事前に自己学習し、積極的に学ぶ姿勢がある
1 年以上	・ 経験年数に応じて、母子・看護に関わる幅広い知識とスキルを身に付けている。必要な知識は自ら情報収集し、習得できている。 ・ 平成 23 年に卒業して、保健師として入職したスタッフがいます。入職時より専門的な知識・学力を活かし、配属部署での業務も理解力がありました。現在も部署でのリーダーシップ、看護部委員会など積極的に活躍しています。 ・ 院内研修プログラムに沿ってひとつひとつ丁寧に取り組むことができている。 ・ 実践者ラダーレベル I 申請ができた ・ 患者家族に生活指導ができる ・ 退院支援カンファレンスで意見が言える ・ 入院時の対応、入院中の患者さんの支援を適切に行えている ・ 自ら学習し、学ぶ姿勢あり ・ 書籍などを利用し、知識向上に努めている

【改善点・不足している点】

- ・ 優先順位に迷うことがあるため支援が必要

2. 療養支援等に必要な技術を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



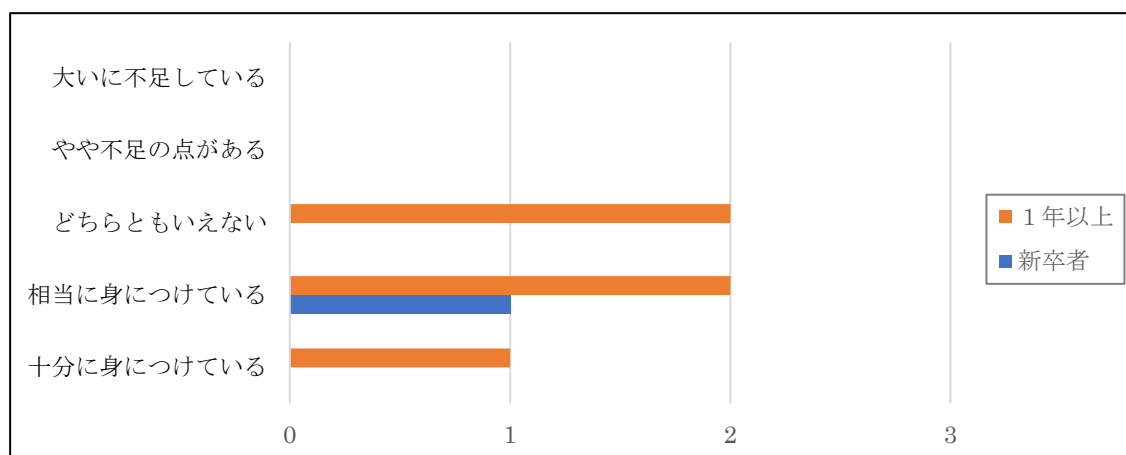
【優れている点】

新卒者	・経験した技術、未経験の技術ともに実施前に事前に学習をしている（主体的に）。
1年以上	・技術についても自己研鑽の意識は高く、自ら技術習得出来ている。当館の手順書やマニュアルを使用し、確認しながら技術習得出来ている。 ・自部署での自身の役割に応じた研修会や資格取得を積極的に習得する姿勢が見受けられます。 ・院内支援プログラムに沿って定期的に技術チェックを行い、身に付けることができた ・必要な看護技術は身に付けている。入職後も院内研修に参加し、必要な技術は身に付けようとしている。 ・特に acty や研修で問題なく、病棟でも必要な力を身に付けることができる ・基本的看護技術は修得でき、問題はなかった。堂々としていて安心感を与えている。

【改善点・不足している点】

- ・自部署特有の処置について、OJT を活用した支援が必要
- ・日々の業務に追われ、ケアが不足している時がある”

3. 療養支援等に必要な問題解決能力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



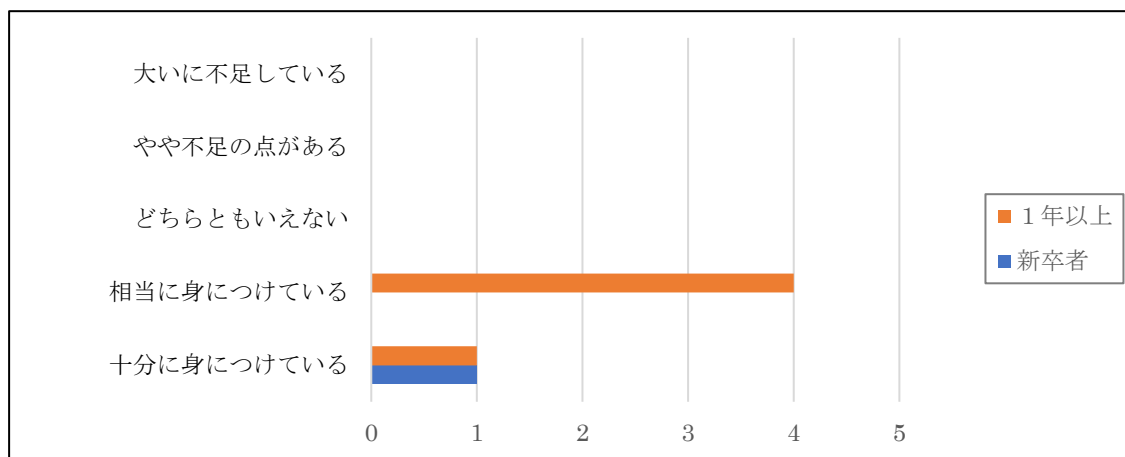
【優れている点】

新卒者	・ 指導者へよく相談ができています
1年以上	・ 受け持ち患者の看護問題を明らかにでき、看護計画、立案、ケアの提供ができています。看護の場面以外でも問題解決能力は身につけている。 ・ 質問2で回答したように自己学習も行いますが、困難だと思うときには、上司や認定看護師等に相談できる能力を持っています。 ・ 院内研修を通して現在学びを深めている時期。 ・ 受け持ち患者さんの問題点は把握して解決に向けている。 ・ 自分で考えて行動ができています。 ・ 問題にぶつかった時に自分の力で解決しようとする意欲はある。

【改善点・不足している点】

- ・ (院内研修を通して現在学びを深めている時期) のため、まだ実践力として身につけていない。
- ・ 病棟内のカンファレンス時など発言や意見を述べるのが少ない。
- ・ 当初、問題解決のために先輩に相談することができなかったが、面接で振り返りを繰り返し、相談が少しずつできるようになった。

4. 療養支援等に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



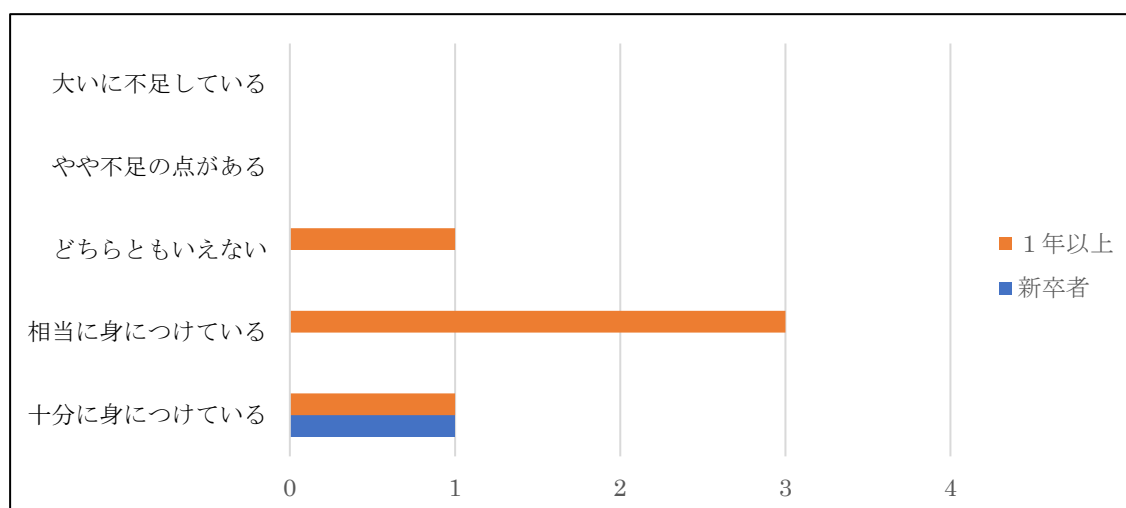
【優れている点】

新卒者	・自ら積極的に挨拶をしたり、患者に対しても丁寧な対応である。笑顔で気持ちの良い関わりができています。
1年以上	・医療倫理、看護倫理に基づき、患者の人権を擁護しながら仕事ができている。医療者としての責任を持ち、行動することができる。コミュニケーション能力も高い。 ・患者、家族との対応、医師や多職種との対応を行う際も、適切な言葉遣い、態度で行えています。 ・患者、家族対応は日々丁寧にできている ・倫理カンファレンスで意見が述べられる ・患者さん、ご家族に対しての接し方は適切に行えている ・相手を思い、声掛けを行う行動はできている ・学ぶ姿勢、謙虚さともにあるので資質はあると思います ・患者のニーズに沿った看護を行えるように努力している

【改善点・不足している点】

- ・倫理的視点については今後実践や院内研修参加の中で学びを深めていきたいと思う
- ・アセスメントの視点がまだ発展途上であり、患者のニーズをとらえ違えることがある。先輩の指導に対して感情の出る場面があったが、振り返りを行い改善傾向。

5. チーム医療に必要な協調性・リーダーシップ等をどの程度身に付けていますか？



【優れている点】

新卒者	特になし
1年以上	・自分の意見は相手に伝える事ができており、コミュニケーション能力も高く、自ら進んで話し合いをすることができている。スタッフの中心となって仕事する事ができ、実地指導者、臨地実習指導も積極的にできている。 ・先輩・後輩の特性を見極めながら現場でのリーダーシップが取れています。質問1～4で回答したようなことから上司からも厚い信頼を受けています。 ・協調性は身に付けることができている。PNS体制の中での態度、マインドについても心がけて実践できている。 ・部署内で日々のリーダーを務めている。周囲を見て状況判断、声出しができる ・委員として役割を担っており、必要な伝達事項等発信している。 ・チーム内での協調性はとれている。 ・互いに協力しており、学習会なども行っている。 ・先輩、後輩ともコミュニケーションをとり、打ち解けた様子で会話できている。

【改善点・不足している点】

- ・リーダーシップに関しては現在まだ身についていない。今後実践を重ねて身につくと思う。
- ・病棟内のリーダーは未経験のために今後経験して身に付けてもらう
- ・急性期症状のある患者対応で自己判断でケアした結果、インシデントにつながった報告、相談、連絡の振り返りをこの事例と通して行い、改善につながっている。

6. その他（自由記載）

- ・日々学習を重ね、できることが増えてきたと感じている。
- ・入職後3年目となり、部署の特色や検査、手術も経験して後輩への指導を行ってもらっている。
- ・今年度より院内の看護研修メンバーとしても活動をしてもらって頑張っている。
- ・産科領域の就職者が多いためか、管理者や教育者などのキャリア志向が少ない。
- ・スタッフとのコミュニケーションも図れて業務が行えている。2つの病棟で勤務しながら看護業務を行い、積極的に知識・技術を身に付けようとしている。また、毎日一生懸命に頑張る姿を見て先輩看護師に良い刺激を与えている。

Ⅳ 研究に関する状況と自己評価

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

1. 研究の実施体制・推進体制

医学部においては、研究を推進する特色ある教育研究センター等を設置している。（資料1）

資料1 研究を推進する教育研究センター等

名称	特色	設置部門等
医学部附属地域医療科学教育研究センター	高度に発展し分化した専門分野の連携を図り、住民本位の地域医療連携モデルの作成と実現、地域医療の包括的な発展に貢献する研究・人材育成を目的とする教育・研究施設として平成15年4月に設置し、令和7年度末現在右記の4部門からなる。グローバルな人材育成も鑑み、国際社会で活躍できる医師・研究者の育成にも尽力している。	・医学教育開発部門 ・数理解析部門（教育IR室） ・国際健康科学部門 ・オミックス医療研究部門
医学部附属先端医学研究推進支援センター	医学部及び附属病院における研究推進、教育研究支援並びに学内外への情報発信を目的に平成19年4月に設置した。	・研究推進部門 ・研究支援部門
寄附講座	企業等との共同の下、専任教員を配置し、各分野における先端的な基礎的・臨床的研究を展開することを目的とし、平成16年10月から順次設置した。なお、21講座は、それぞれ当初の目的を達成し終了し、現在は右に示す3講座が稼働している。	・人工関節学 ・胆膵先進医療学 ・不整脈精密医療学
共同研究講座れい	民間機関等から本学に受け入れる研究経費を活用して本学と民間機関等が共同して研究を実施することにより、教育研究の進展及び充実を図ることを目的とし、令和2年4月1日設置した。	・創薬科学
医学部附属再生医学研究センター	医学部の再生医学に関する研究を推進し、新しい医療技術開発を促進することで、医学教育及び医工学研究の人材育成の場を構築し、国内外の企業、大学及び医療機関等の連携拠点となることを目指し、地域の発展並びに医療技術の向上に貢献することを目的に平成31年4月に設置した。	
医学部附属看護学教育研究支援センター	看護職者の教育・研究・臨床実践・マネジメント能力を高めるための生涯継続教育を支援し、また、人事交流や国際交流を支援することにより、看護職者のキャリア向上を目指すとともに、地域の看護学の発展ひいては地域医療に貢献することを目的として平成26年4月に設置したもので、右記の3部門からなる。	・教育研究実践支援部門 ・人事交流支援部門 ・国際交流支援部門
医学部附属病院臨床研究センター	医学部及び医学部附属病院の研究者が関与する臨床研究（看護研究等すべての人を対象とする研究を含む。）、先進医療、企業主導型治験、医師主導型治験、製造販売後臨床試験及び製造販売後調査に関する業務を行い、信頼性と品質管理及び倫理性・科学性を確保することを目的として、平成27年5月に設置した。	・データサイエンス部門 ・臨床研究推進部門 ・監査部門 ・治験部門

2. 発表論文数

発表論文数は（資料2）のとおりであり、前年と比較して全体の件数は減少している（前年比：著書（欧文・和文）71%、原著・総説（欧文）89%、原著・総説（和文）79%）。今後も継続的に研究支援・評価を計画実行していく。

資料2 発表論文数（延べ総数）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
著書（欧文・和文）	161	125	172	112	112	79
原著・総説（欧文）	527	648	575	521	497	444
原著・総説（和文）	317	285	211	200	201	158
計	1005	1,058	958	833	809	681

※出典 佐賀大学医学部研究業績年報第40号

3. 学会発表数

学会発表数は、（資料3）のとおりであり、前年と比較して全体の件数は減少している。

資料3 学会発表数（延べ総件数）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
国際学会	91	86	112	136	152	136
国内学会（全国規模）	704	868	1,107	1,216	1,171	930
国内学会（地方規模）	170	315	928	895	869	780
計	965	1,269	2,147	2,247	2,192	1,846

※出典 医学部総務課資料

4. 特許出願・保有件数

特許の出願及び保有件数は、（資料4）のとおりである。前年と比較して国内特許・外国特許の保有件数がともに増加しており、知的財産の創出に寄与している。

資料4 特許出願・保有件数

（ ）は出願件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
国内特許	-	-	-	-	42 (6)	48 (2)
外国特許	-	-	-	-	29 (5)	41 (5)
計	-	-	-	-	71 (11)	89 (7)

※出典 社会連携課資料

※特許出願・保有件数は令和6年度より集計

5. 外部資金の獲得状況

(1) 科学研究費助成事業（科研費）

科学研究費助成事業の獲得状況は（資料5）のとおりである。前年と比較して採択件数・金額がともに増加した。令和6年度から採択率向上に向けた医学部独自の支援を開始しており、今後その効果が期待される。

資料5 科学研究費助成事業（科研費）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
採択件数	102	122	125	134	124	129
金額(千円)	217,728	209,401	231,578	241,994	187,972	204,552

※継続の件数・金額を含む
 ※交付額には間接経費を含む
 ※出典 佐賀大学ホームページ

(2) 厚生労働科学研究費補助金

厚生労働科学研究費補助金の獲得状況は（資料6）のとおりである。前年と比較して、金額は微減したものの採択件数は増加しており、安定した獲得状況を維持している。

資料6 厚生労働科学研究費補助金

（ ）は本学が代表の値

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
採択件数	18 (0)	19 (1)	17 (0)	22 (1)	23 (1)	28 (1)
金額(千円)	25,350 (0)	70,074 (11,024)	26,130 (0)	22,160 (9,100)	24,317 (7,150)	23,780 (6,600)

※出典 研究推進課資料

(3) 共同研究

共同研究の実施状況は（資料7）のとおりである。前年と比較して件数は微減したが、金額が増加した。産学官の連携が着実に進展していることがうかがえる（前年比:件数96%、金額131%）。

資料7 共同研究

（ ）は共同研究先が県内企業

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	22 (-)	23 (-)	28 (-)	24 (-)	45 (2)	43 (2)
金額(千円)	4,243 (-)	51,834 (-)	70,379 (-)	23,839 (-)	70,379 (1,100)	92,224 (10,022)

※出典 佐賀大学ホームページ

※出典 県内企業にかかる数値は令和6年度から集計

(4) 受託研究

受託研究の実施状況は（資料8）のとおりである。前年と比較して件数は減少したが金額は増加した。件数のうち、政府の競争的研究費制度に該当するものが占める割合は増加しており、質の高い研究へのシフトが見られる。

資料8 受託研究

（ ）は政府の競争的研究費制度に該当（再委託を除く）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	973 (7)	1,063 (7)	1,003 (3)	1,017 (5)	957 (10)	778 (9)
金額(千円)	210,762 (105,850)	200,432 (83,578)	117,892 (24,547)	189,558 (36,429)	165,307 (47,678)	192,276 (72,479)

※病理組織検査を含む

※出典 社会連携課資料、医学部経営管理課資料

(5) 研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）

研究助成金の受け入れ状況は（資料9）のとおり、前年と比較して件数は微増、金額は大幅に増加した。研究助成金を含めた奨学寄附金の受け入れ状況は（資料10）のとおりである。

資料9 研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	52	58	44	42	33	34
金額(千円)	85,407	39,468	41,900	59,236	38,841	51,178

※出典 医学部経営管理課資料

資料10 奨学寄附金

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	589	562	590	498	460	400
金額(千円)	333,669	449,981	411,609	366,441	316,075	284,637

※研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）を含む

※出典 佐賀大学ホームページ

(6) 寄附講座

佐賀県や民間企業からの申込みを受け、平成 16 年度以降に 24 の寄附講座が設置され、(資料 11) のとおり、現在は 3 講座が教育研究活動を展開している。前年と比較して講座数は 1 減少したものの、現存する講座では安定した運営が維持されている。

資料 11 実施中の寄附講座一覧

単位：千円

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	合計
人工関節学講座 (H17. 1. 1～R7. 12. 31)	20,000	20,000	20,000	20,000	15,000	15,000	110,000
胆膵先進医療学講座 (R5. 8. 1～R7. 7. 31)	－	－	－	9,000	9,000	－	18,000
不整脈精密医療学講座 (R6. 6. 1～R8. 5. 31)	－	－	－	－	13,000	13,000	26,000

※出典 医学部総務課資料

資料 12 寄附講座設置に係る経費の受入状況

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
講座件数	7	7	5	4	4	3
金額(千円)	122,500	128,500	108,500	72,000	57,000	28,000

※出典 医学部総務課資料

(7) 共同研究講座

民間機関等から受け入れる研究経費を活用して行う、本学と民間機関等の共同研究により、教育研究の進展及び充実を図ることを目的とし、令和 2 年 4 月より開始した。(資料 13) のとおり、現在まで 1 講座を設置している。

資料 13 共同研究講座の設置状況

創薬科学共同研究講座（令和 2 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
金額(千円)	42,928	42,928	42,928	42,928	42,928	37,990

※出典 医学部総務課資料

（８）治験件数

民間製薬会社等からの治験は、（資料 14）のとおりである。前年と比較して件数・金額ともに増加しており、治験活動の活発化が見られる。

資料 14 治験件数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
件数	48	45	67	66	66	76
金額(千円)	45,987	60,393	45,633	53,828	63,876	75,500

※出典 経営管理課資料

6. 研究に対する支援

（１）研究推進支援事業（研究活動活性化）

研究推進支援事業（研究活動活性化）として、間接経費が措置される競争的資金等において、当該年度の 9 月末日までの期間において、研究者毎に集計した間接経費額が以下の基準を満たす場合に、部局に配分される間接経費額の一部を研究費として追加配分する支援を実施している（資料 15）。

間接経費率 間接経費基準額	直接経費の 30%	直接経費の 30%未満
300 万円以上～	50%相当（全体の 25%相当）	20%相当（全体の 10%相当）
100 万円以上～300 万円未満	50%相当（全体の 25%相当）	10%相当（全体の 5%相当）
30 万円以上～100 万円未満	50%相当（全体の 25%相当）	×対象外
30 万円未満	×対象外	×対象外

資料 15 研究推進支援事業（研究活動活性化）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
件数	73	62	69	77	77	77
金額(千円)	14,584	14,323	13,063	19,634	16,217	17,024

※出典 医学部総務委員会資料

（２）表彰

医学部長賞（研究部門）

医学部の発展に資することを目的とし、優れた業績等のあったと認められる個人に対して授与している。（資料 16）

資料 16 医学部長賞（研究部門）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
受賞者数	2	2	3	1	2	3

※出典 教授会資料

大学院医学系研究科優秀論文賞

優れた研究論文を発表した大学院生に、今後の更なる研究の発展を期待し、毎年度、医学系研究科優秀論文賞を授与している（資料 17）。

資料 17 大学院医学系研究科優秀論文賞

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
優秀論文賞	1	1	1	1	該当なし	1
優秀論文奨励賞	3	1	2	2	1	2

※修士課程は令和 5 年度で終了したため、博士課程に係る数値のみ掲載

※出典 医学系研究科委員会資料

医学部若手研究者優秀論文賞

医学部における研究水準の向上に著しい貢献をした研究論文の中から、若手研究者が発表した優秀な論文を選考し、優秀論文賞及び優秀論文奨励賞を授与している（資料 18）。

資料 18 医学部若手研究者優秀論文賞	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
優秀論文賞	1	1	1	1	1	1
優秀論文奨励賞	2	3	2	2	2	2

※出典 医学系会議資料

（３）セミナー・その他支援等

研究推進の支援として、（資料 19）のとおり実施している。

資料 19 セミナー・その他支援等

令和 7 年度実績

名 称	目 的	回数	延べ参加人数
屋根瓦式相互査読プログラム (科研費申請サポートプログラム)	科研費の採択率向上と外部資金の更なる獲得を目指し、各段階にある研究者の相互査読を経て、更に上級研究者の厳格な査読を受けることにより、より効果的な申請書の作成技術を学ぶことを目的とする。	1	41
大学教職員のための生成 AI 活用入門 面倒な文書は AI に任せて、 速く・うまく書く！ ～普段使いから科研費申請書まで～	ChatGPT を用いた生成系 AI の基本的な使用方法を理解することで、科研費申請書の文書作成に活用し、新規採択数向上を目指す。	1	33
科研費獲得のための生成 AI 活用術 ～アイデア創出から申請書 作成まで徹底解説～	ChatGPT を用いた生成系 AI の基本的な使用方法を理解することで、科研費申請書の文書作成に活用し、新規採択数向上を目指す。	1	42
科研費獲得の方法とコツ： 実例とポイントでわかる採択 されるための申請書の書き方	ChatGPT を用いた生成系 AI の基本的な使用方法を理解することで、科研費申請書の文書作成に活用し、新規採択数向上を目指す。	1	26
申請書作成のための生成 AI 活用術	ChatGPT を用いた生成系 AI の基本的な使用方法を理解することで、科研費申請書の文書作成に活用し、新規採択数向上を目指す。	1	38

申請書外部添削 (科研費申請サポートプログラム)	科研費の採択率向上と外部資金の更なる獲得を目指し、申請書類のブラッシュアップを目的とする。	-	31
英文論文作成セミナー	英語での論文発表や学会発表は研究者として必須であり、これに必要な英文論文作成のスキルアップを目的とする。	8	50
医学部プロフェッショナルレクチャー	医学部内外の連携を促進するために、専門性の高いセミナーを他学部にも開放し、相互理解と新たな研究連携の機会の創出を目的とする。	4	233
医学部リトリート	基礎と臨床研究者間の相互対話の機会を設け、共同研究を促進することにより、本学の研究活動の活性化を目的とする。	1	56
Student Researcher 研究発表会	「Student Researcher」として医学研究に挑戦する学生の発表を通じて、聴講する学生たちが新たな視点を獲得し、将来の可能性をさらに広げる機会の提供を目的とする。	1	-

7. その他の取組

佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所は、(資料 20) のとおり稼働している。社会的課題への対応として、地域医療や災害対策に関する研究が進められており、今後の成果が期待されている。

資料 20 佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所

プロジェクト名	プロジェクト長	設置期間
災害関連死をゼロにする地域連携プロジェクト	高度救命救急センター 阪本教授	令和 5 年 10 月～令和 8 年 9 月

参考：佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所 (http://www.saga-u.ac.jp/kokusai/supla_gakugai.html)

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

研究成果の発信については、国内外の学術誌への論文投稿、学会での口頭発表およびポスター発表を通じて行われている。前年と比較して著書、原著論文、総説論文の発表件数および学会での発表数はともに減少した。

知的財産の創出には積極的に取り組んでおり、令和7年度には国内特許を2件、外国特許を5件出願した。また、株式会社ミズホメディーとの共同研究から生まれた、国内で初めて便を検体とするピロリ菌のPCR検査キット「スマートジーン® H. pylori S」が体外診断用医薬品として承認されるなど、研究成果の社会実装が進んでいる。

さらに、ミッション実現戦略分プロジェクトに係る実施状況は以下のとおりである。

○オール佐賀で挑むメタボ関連がん撲滅プロジェクト

本プロジェクトは、佐賀県内の肝がん・前立腺がん・膵がんの予防・早期発見・治療・再発予防を目指す地域連携プロジェクトである。

令和7年度には前立腺がんの検診普及を目的としたテレビCMの放送に加えて、身近な市民の目線で「予防行動のきっかけ」を周囲に届ける「メタボがん撲滅サポーター」の募集開始など、積極的な啓発活動が展開された。

さらに、令和7年4月には県内で初めて多久市と連携協定を締結した。協定により、医学部プロジェクトチームの知見を活用した多久市における生活習慣病対策、特定検診・がん検診のより効率的な運用や最適化、すなわち、がん対策モデルの確立が目指される。

○アトピー性皮膚炎の痒みに対するメカニズムの解明と創薬研究

本プロジェクトは、アトピー性皮膚炎に伴う強い痒みの原因を解明し、それを抑制する新たな治療薬の開発を目指す研究プロジェクトである。企業との共同研究や特許出願も活発に行われており、研究は着実に進展している。

令和5年に実施したクラウドファンディングでは、目標額の2倍となる支援を獲得し、社会からの高い関心がうかがえた。令和6年度からは、新たにアレルギー学分野を新設し、既存の分子医科学分野と共にアレルギー疾患を対象として、研究を進めている。

令和7年度には、治療薬として現在開発中のペリオスチン阻害剤「CP4715」が慢性のアレルギー性結膜炎に対して著明な改善効果を有することが、富山大学および日本大学の研究者との協力のもと、発見された。令和7年11月には、アメリカアレルギー臨床免疫学会の学会誌であるジャーナルオブアレルギークリニカルイミュノロジー誌においてオンライン版が公開され、今後もさらなる成果が期待されている。

V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

1. 教育の国際交流状況

佐賀大学医学部は、ハワイ大学と輔仁カトリック大学の2校と国際交流協定を締結している。

ハワイ大学（医学部医学科生）

	令和元年度	令和2~4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受入学生数	4	0	4	4	4
派遣学生数	4	0	8	5	8

輔仁カトリック大学（医学部医学科生）

	令和元年度	令和2~4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受入学生数	4	0	3	4	2
派遣学生数	4	0	1	4	4

※令和2年度～令和4年度はCOVID-19感染拡大のため中止

2. 社会連携・貢献に関する状況

（1）教育

医学部学生の臨床医学教育実習の実施等に関し円滑な実施に資するため、佐賀大学医学部臨床医学教育実習協力病院等運営協議会を設置し、佐賀県内医療機関との協議を行っている。

令和7年度佐賀大学医学部臨床医学教育実習協力病院等運営協議会

日時：令和7年9月26日（金）18：00～18：50

場所：ホテルマリタレ創世 佐賀 3階「グラツィアホール」

（2）研究

【TSUNAGI プロジェクト】

佐賀県が県内大学と連携して実施する「TSUNAGI プロジェクト」は、県内の高等教育機関の技術や知見を活用し、地域課題の解決や産業・学術の発展を通じて、佐賀の未来を創造することを目的としている。このプロジェクトにより産学官連携を通じた地域社会への研究成果の還元と、地域の課題解決への貢献が促進されている。

産学連携の機会の創出と機運の醸成を図るため、令和8年3月26日に開催された「SAGA TSUNAGI コンベンション」においては、医学部から下記5研究課題が出展した。

（出展課題）

・Re-BORN プロジェクト：産婦人科医の復職支援と地域医療支援を両立するリスキリング教

育モデルの構築

- ・佐賀から始める末梢神経疾患の診療支援体制構築
- ・一人ひとりの価値観に寄り添った終末期医療・介護を実現するためのカードゲームを用いた意思決定支援ツールの開発（芸術地域デザイン学部との協働）
- ・地域に根差した高齢者単独世帯の孤独死・突然死回避のシステム構築～押しボタンによる毎朝の安否確認活動の展開～
- ・慢性のアレルギー性結膜疾患を改善する化合物の発見

【SAGA ジュニアドクター体験 2025】

中学 2・3 年生を対象とした医療体験セミナー「SAGA ジュニアドクター体験」を初開催した。このセミナーは、中学生に医療の手技等を体験してもらい、「医師」という職業への関心を高めるとともに、将来の進路選択の一助とすることを目的とした活動である。当日の様子は、佐賀新聞および FBS 福岡放送でも報道された。

開催日：令和 7 年 11 月 2 日（日）

場所：佐賀大学医学部附属病院 付帯施設等 2 階 他

参加人数：31 名

VI－I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

1. 医学部・医学系研究科の第4期中期目標・中期計画及び進捗状況

中期目標

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

(10) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。②3 安全管理に深い理解のある人材の育成を図るとともに、安全管理体制の整備を実現することで、安全と環境に配慮した大学運営を進める。

中期計画

(10-1) 財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指し、多様な研究資源を活用した外部資金の獲得や他の教育機関等との連携・協働による財源確保を進め、保有する施設及び設備の有効活用を行う。

令和7年度の取り組み状況

(10-1)

医学部独自の取組として、以下の取組を行った。

・屋根瓦式相互査読プログラム（科研費申請書サポートプログラム）

研究初学者の申請力向上を目的に、学部横断で申請者と査読者を募り、科研費採択実績に応じて初心者・中級者・上級者の3段階に分けて査読・校正を行うことで、研究コンセプトと文書作成スキルの同時強化を図っている。（参加人数：41名）

・申請書作成能力支援セミナー（科研費申請サポートプログラム）

新規採択数向上に向け、ChatGPTを用いた生成系AIの基本的な使用方法を理解することで、科研費申請書の文書作成に活用する機会を提供している。（開催回数：4回、延べ参加人数：139名）

・英文論文作成セミナー

英語論文掲載数の少なさを受け、若手研究者の英語論文作成力向上を目的に、専門家によるセミナーを実施している。参加者が論文を分析・議論することで、構成や研究の妥当性を多角的に学ぶ機会を提供している。（令和7年9月16日～令和7年12月23日、計8回）

・医学部プロフェッショナルレクチャー

医学部内外の連携を促進するために、専門性の高いセミナーを他学部にも開放し、相互理解と新たな研究連携の機会を創出している。（開催回数：4回、延べ参加人数233名）

・医学部リトリートの開催

教員や学生、臨床や基礎などの立場や分野の垣根を無くし、参加者全員で科学的思考・議論を行う場を提供した。

開催日：令和7年8月23日(土)～24日(日)

場所：虹の松原ホテル The Beach（唐津市東唐津4丁目）

参加人数：56名

中期目標

Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

- (11) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。④

中期計画

- (11-2) 法人経営に対する理解・支持を獲得するために、法人の経営に関する情報等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献、国際交流等の情報を、各ステークホルダーに応じた手段を用いて効果的かつ積極的に発信する。また、各ステークホルダーとの意見交換の場を設け、それらを通じて聴取した意見による改善事例を公表する。

令和7年度の取組状況

(11-2)

○ステークホルダーへの情報発信

- ・医学部における情報発信は、令和6年度にX及びInstagramの開設及び運用開始したことに加え、附属病院においてInstagram、X及びYouTubeを新たに開設し、それぞれの特性に応じた積極的な情報発信を行った。
- ・医学部及び附属病院の情報発信を強化するため、令和7年4月に鍋島キャンパスに「メディカル広報室」が設置された。これにより、これまで医学部の各担当部署において行っていた広報業務が一元的に集約され、効果的な情報発信の体制が整った。令和7年6からは芸術地域デザイン学部及び大学院地域デザイン研究科の学生を広報スタッフとして登用し、芸術を志向する若者の意見を広報媒体に反映させるなど、様々な情報発信に取り組んでいる。

○意見交換等によるステークホルダーからの意見聴取と改善

- ・令和7年9月26日に地域の連携病院の理事長・病院長を召集した「佐賀大学医学部附属病

院連携病院長会議」を行った。今回のアンケート結果では、具体的に改善希望の意見は寄せられなかったが、次回会議で取り上げて欲しいテーマとして「緊急性の高い疾患の紹介について」という要望があった。「緊急性の高い疾患の紹介について」は電話で連絡いただくよう、インターネット予約システム（C@RNA Connect）にお知らせとして表示し、周知を行った。

中期目標

（１２）AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②⑤

中期計画

- （１２－１）情報の機密性、完全性、可用性が担保されたデジタル・キャンパスを目指し、通信環境などの情報基盤を整備、強化するとともに情報セキュリティのための組織的対策及びeラーニング教育等を実施する。
- （１２－２）業務全般の継続性が確保されたデジタル・キャンパスの実現を目指し、AI やRPAなどのデジタル技術を活用して、運営事務の効率化を推進する。

令和７年度の取り組み状況

（１２－１）

本学教職員は毎年度１回以上情報セキュリティ教育に関する教育の受講が義務付けられている。このため医学部に在籍する教職員に対し、オンライン学習の受講を呼びかけている。

eラーニング講習の受講状況を把握し、受講促進に取り組んだ結果、１１月３０日現在の受講率は１００％を達成した。

（１２－２）

「兼業依頼の電子化」に対してRPAの導入を検討・構築した。令和７年度中にRPAプログラムを構築し、必要な規程の改正などを経て、令和８年度からの稼働に向けて構築作業を進めた。

今後も、業務の特性や効果を踏まえながら、適切な業務に対してRPAの導入を進めていく予定である。

２．施設の状況

1979年に竣工した臨床講堂は老朽化が進んでいたことから、より安全・安心な教育環境を確保する施設への再生を目指し、令和５年度に国立大学法人等施設整備事業に申請した。文部科学省から最高評価であるＳ評価を得たものの、最終的には予算措置は見送られた。しかし、令和６年

度に再度申請を行い、前年度に引き続き S 評価を獲得した結果、予算措置が決定した。令和 7 年度から改修工事を開始し、このたび新たな臨床講堂として整備が完了した。

改修後の臨床講堂は、1 階に 108 席及び 119 席の小講堂を 2 室、2 階に 268 席の大講堂 1 室を備え、講義や講演会はもとより、学会等の開催にも対応できる施設となった。各座席の机には電源コンセントを設置し、ICT を活用した教育・研究活動に適した環境を整備している。また、新たにエレベーターや多目的トイレを設置することで、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した施設へと生まれ変わった。これにより、学生や教職員をはじめ、多様な利用者に対して、より安全・安心で快適な教育・研究環境を提供している。

3. その他部局の重要な取組

自律持続型高度学術研究・臨床教育拠点の構築 ―屋根瓦式研究教育の早期導入による循環型人材育成― の実施

令和 6 年 8 月に文部科学省高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）のタイプ B 特色臨床研究基盤人材養成拠点に採択された。

本事業の目的は、「医師の働き方改革を推進するとともに、医学生や医学系大学院生に対して、大学病院における効果的な臨床実習や研究活動への参加機会を確保する。また、教育研究支援者の活用によって研究体制を強化し、臨床研究を促進することで、臨床教育・研究に関する高度な知識・技能を備えた優れた医師を育成し、日本の医学・医療の発展および研究力の向上に貢献する。」とされている。

医学域において、①先端的医学研究を基盤としながら、本学部独自の②Student Researcher (SR) システムおよび③Student as Teachers (SAT) 教育システムを有機的に融合させた。本システムにより、学部学生から大学院生に至るまで一貫した研究教育体制を構築するとともに、医療の場において学生が指導者としても活動する機会を設けることで、学修の深化を図った。

これにより、科学者としての視点と教育指導者としての視点を兼ね備えた医学生、看護学生、医師、さらにはその他の医療従事者の養成を可能とする、佐賀大学独自の包括的教育システムが確立された。この学術研究と臨床教育の循環型人材育成を通じて、自立的かつ持続的な地域拠点の構築を目指している。

本事業の内容と目的を医学部内に広く周知・浸透させるため、「SIRIUS (Scientific Research and Clinical Education across Saga) プロジェクト」という愛称を設定し、令和 7 年 4 月にはポータルサイトを開設した。セミナー情報、各講座からの最新情報、教育動画コンテンツなど、学修・研究に有用な情報が幅広く発信され、教育・研究活動が組織的に推進されている。

VI－II 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策

・改善すべき点等一覧（教育）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 4年	使命及び基本理念に記載されている「地域医療の向上」、「地域包括医療の向上」について、学生が目標達成するための臨床実習カリキュラムを作成すべきである。		【令和5年7月】 令和5年度入学生より、臨床実習開始時期を4年次1月に前倒しし、十分な臨床実習開始期間を確保するとともに、地域医療教育の期間・内容の拡充を重点的に盛り込むものとした。 令和5年度入学生が臨床実習を開始する令和8年度までに、臨床実習における教育・評価の方略を定めるべく、カリキュラム委員会、PhaseⅣ検討部会で検討を重ねる。また、臨床実習全体を通じた教育・評価の目標や方略の共有を図る。 【令和6年7月】 PhaseⅢ・Ⅳ合同検討部会において、令和5年度入学生が3年次となる令和7年度に向け、新カリキュラム（日程、ユニット構成、教育方略等）を今年度中に策定する予定。また、その新カリキュラムを策定次第、臨床実習カリキュラムを、令和5年度入学生が4年次となる令和8年度までに策定する。 【令和7年7月】 令和8年度から開始予定の臨床実習新カリキュラムでは、地域医療実習の期間を合計8週間に拡充することを決定した。拡充するに伴い、協力施設数を増加する必要がある、新たに13施設に協力いただけることになり、地域医療		☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			実習協力施設は合計 30 施設となる。また、協力施設と協議し、地域医療実習における到達目標の設定を行った。 【令和 8 年 7 月】 令和 5 年度入学生が今年度 4 年生となり、令和 9 年 1 月から臨床実習を開始するにあたり、地域医療実習の協力施設と定期的にミーティングを行っている。また、実習を通して、地域での医療現場を直接体験することで、地域医療への関心を深め、将来的に地域で活躍する医師の育成を行う。			

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 4年	入学定員充足率（R2～R5年度平均）が認証評価基準を下回っている。（項目 5-3-1） 【実績：平均 54%（R2:20%、R3:76%、R4:56%、R5：64%）】		【令和5年7月】 定員数の見直しについて検討する。 【令和6年7月】 定員を充足させる取り組みとして、次の4つを実施している。①佐賀大学で医学部学生のうちから、基礎研究に興味のある学生を各研究室で受け入れる取り組み、②医学系研究科博士課程と医学部医学科の教育連携を図るため、入学前に授業科目を受講する科目等履修生の取り組み、③佐賀県医療センター好生館や佐賀中部病院など、臨床実習協力病院を訪問し、社会人入学者数を増加させる取り組みを行っている。併せて医学部教授会においても、キャリア形成の一環として、④各診療科でも学位取得を促すよう働きかけを行っている。 【令和7年7月】 前年度の取り組みを継続し、入学者数が増加している。令和7年10月入学者数によっては、100%の定員充足率を見込んでいる。 【令和8年7月】 令和7年度入学者は合計25名、令和8年4月入学者は28名であり、2年連続で入学定員を満たしている。令和8年6月には、入試説明会を会場とオンラインのハイブリッド開催し、30名が参加した。		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()	

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 7年	(令和7年度自己点検・評価書で「改善すべき点」として記載した事項を↓ こちらにも記載)		【令和8年7月】		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

※必要に応じて適宜欄を追加してください。

※修正・変更する課題の欄には斜線を引いてください。(欄を削除しないでください。)

※修正・変更する課題の「計画の進捗状況」は、「その他(課題整理)」と記載してください。

※修正・変更後の課題を直下の欄に記載し、対応計画・改善状況及び計画の進捗状況を記載してください。

※ワードで提出してください。

・改善すべき点等一覧（研究）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 7年	（令和7年度自己点検・評価書で「改善すべき点」として記載した事項を↓ こちらにも記載）		【令和8年7月】		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

※必要に応じて適宜欄を追加してください。

※修正・変更する課題の欄には斜線を引いてください。（欄を削除しないでください。）

※修正・変更する課題の「計画の進捗状況」は、「その他（課題整理）」と記載してください。

※修正・変更後の課題を直下の欄に記載し、対応計画・改善状況及び計画の進捗状況を記載してください。

※ワードで提出してください。

・改善すべき点等一覧（国際交流・社会貢献）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 7年	（令和7年度自己点検・評価書で「改善すべき点」として記載した事項を↓ こちらにも記載）		【令和8年7月】		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

※必要に応じて適宜欄を追加してください。

※修正・変更する課題の欄には斜線を引いてください。（欄を削除しないでください。）

※修正・変更する課題の「計画の進捗状況」は、「その他（課題整理）」と記載してください。

※修正・変更後の課題を直下の欄に記載し、対応計画・改善状況及び計画の進捗状況を記載してください。

※ワードで提出してください。

・改善すべき点等一覧（組織運営）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 2年	教員の年齢、性別構成について、ダイバーシティ推進委員会を設置して是正の努力はなされている。しかし、女性教員の割合は前年度と変わらず27%である。女性の助教の割合が32%、准教授28%、講師が20%と講師の割合が低いことは、講師の年代の女性教員に対してより支援が必要であることを示しているのではないかと思う。	令和2年度自己点検・評価書に対する外部評価	【令和3年12月】 令和2年4月から、「女性教員任用における公募の実施に関する申合せ」が制定され、「本公募では、「男女共同参画社会基本法」の主旨に則り、業績評価等の審査結果について同等と認められた場合には、女性を優先的に採用します。」の文言を追加し、公募を行っている。令和3年度においては、社会医学講座（環境医学分野）准教授の教員選考で、女性限定公募を行った。引き続き、改善に努めていく。 【令和4年10月】 引き続き、改善に努めているが、女性教員の割合は、大きく変化していない。 【令和5年7月】 引き続き、改善に努めているが、女性教員の割合は増えていない。 【令和6年7月】 クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入に係る支援が開始され、令和6年度はこの支援制度を利用して3名の女性教員を受け入れている。今後も積極的な受入に取り組んでいく。 【令和7年7月】 クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入支援制度により、昨年度から引き続き3名の女性教員を受け入れている。	医学部・医学系研究科	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			今後も積極的な受入に取り組んでいく。 【令和8年7月】 クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入支援制度により、昨年度から引き続き3名の女性教員を受け入れている。今後も積極的な受入に取り組んでいく。			
令和6年	医学部および医学部附属病院のウェブサイトがリニューアルされてはいるが、一部、古い情報やアクセスできないページがあり、全体的な整備が必要ではないか。	令和5年度自己点検・評価書に対する外部評価	【令和7年7月】 令和7年4月にメディカル広報室を設置し、医学部及び医学部附属病院のウェブサイトの管理を一元化した。今後、全体的な整備を進めていく。 【令和8年7月】 古い情報やアクセスできないページについては適宜更新・改修している。なお、附属病院のウェブサイトについては、5月に実施された病院機能評価において、目的のページにたどり着くまでに多くの操作が必要で見づらい等の指摘もあったことから、年度内に検討を開始し、令和9年度にリニューアルする予定である。	メディカル広報室	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()	

※必要に応じて適宜欄を追加してください。

※修正・変更する課題の欄には斜線を引いてください。(欄を削除しないでください。)

※修正・変更する課題の「計画の進捗状況」は、「その他(課題整理)」と記載してください。

※修正・変更後の課題を直下の欄に記載し、対応計画・改善状況及び計画の進捗状況を記載してください。

※ワードで提出してください。

・改善すべき点等一覧（施設）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 7年	（令和7年度自己点検・評価書で「改善すべき点」として記載した事項を↓ こちらにも記載）		【令和8年7月】		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 （ ）	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 （ ）	
					☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 （ ）	

※必要に応じて適宜欄を追加してください。

※修正・変更する課題の欄には斜線を引いてください。（欄を削除しないでください。）

※修正・変更する課題の「計画の進捗状況」は、「その他（課題整理）」と記載してください。

※修正・変更後の課題を直下の欄に記載し、対応計画・改善状況及び計画の進捗状況を記載してください。

※ワードで提出してください。